

# 米国プリンストン大学における学部教育について

－その理念・制度的特徴・SFCへの示唆－

岡部光明\*

2005年4月

本稿は、文部科学省「海外先進教育研究実践支援プログラム」(平成16年度)による資金支援を受けて米国プリンストン大学で行った実地調査(2005年3月)を踏まえて取りまとめたものである。この調査にあたり、同大学教員との面談の機会を作ってくださったリン・ティースマイア教授(慶應義塾大学環境情報学部)に感謝したい。本稿ではSFCでの議論を活発化するための材料を提供する意図のもと、SFCの現行カリキュラムの課題やその改善提案等にも言及しているが、それらは純粋に筆者の個人的見解でありSFCの公式見解ではない。なお本稿は<<http://web.sfc.keio.ac.jp/okabe/writing.html>>に掲載してあるので全文をそこからダウンロードすることができる。

\*慶應義塾大学総合政策学部教授(okabe@sfc.keio.ac.jp)

## 概要

米国東部にある名門プリンストン大学は、研究面でトップクラスにあるだけでなく、学部教育の最優先を基本方針とするユニークな大学として知られる。同大学の学部教育を特徴づける制度としては様々なものがあるが、なかでも Preceptorial system（講義内容補完を目的とした少人数グループ討議の制度）、Honor system（全ての筆記試験は学生の正直さを前提とし教員による試験監督なしで実施する制度）、卒業論文重点主義などがある。また社会科学系では Policy task force（少人数で行う政策立案セミナー）というユニークな学部科目も設置されている。これらの制度の多くは長年続いてきたものであり、同大学の教育上いずれも大きな役割を果たしている。今後 SFC において学部カリキュラムの改善を行う場合、専門性の強化や基礎学力の涵養を図ることが大きな方向になるとすれば、例えば全授業の週 2 コマ化、政策立案セミナーの導入、卒業製作必須化、履修科目に関する教員アドバイザー制度の充実など、プリンストン大学の制度が参考になる場合が少なくない。

## 目次

|   |    |
|---|----|
| はじめに-----                                 | 4  |
| 1．プリンストン大学の特徴-----                        | 4  |
| (1) 研究系大学ながら学部教育最優先を標榜-----               | 4  |
| (2) 研究と教育を一体化する思想-----                    | 7  |
| 2．四年間の学部教育を支える仕組み-----                    | 8  |
| (1) 1年生用セミナーと履修科目分散規定-----                | 8  |
| (2) 卒業論文と第3学年論文-----                      | 10 |
| 3．プリンストン特有の制度(1)：Preceptorial system----- | 11 |
| (1) プリセプト運営面での特徴-----                     | 12 |
| (2) プリセプトの運営方法と担当者の役割-----                | 13 |
| (3) 学生からみたプリセプトの評価-----                   | 14 |
| (4) プリセプト・システムの評価-----                    | 16 |
| 4．プリンストン特有の制度(2)：Honor system-----        | 16 |
| (1) 宣誓制度の意味と導入の経緯-----                    | 17 |
| (2) 宣誓制度の評価-----                          | 17 |
| 5．プリンストン特有の制度(3)：Policy task force-----   | 18 |
| (1) 政策志向のウッドローウイルソン・スクール-----             | 18 |
| (2) 政策立案セミナーとその運営-----                    | 19 |
| (3) 政策立案セミナーのトピック-----                    | 20 |
| 6．プリンストンにおける幾つかの課題-----                   | 20 |
| 7．SFCの学部教育についての示唆-----                    | 22 |
| (1) SFCカリキュラムに関する対学生アンケート調査-----          | 22 |
| (2) SFCの学部教育についての示唆-----                  | 25 |
| 参考文献および面談者等-----                          | 30 |

## はじめに

大学の使命は、研究、教育、さらには社会貢献など次第に多様なものとなりつつある。しかし、そのなかでも若い世代に対する高等教育は最も古くから期待されている最も基本的な役割である。本稿は、学部教育の面で米国の全大学のなかで最も優れたシステムを持つとされるプリンストン大学の教育思想とその制度的枠組みを明らかにするとともに、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の学部教育システム改革にとってどのような示唆がありうるかを考察したものである。

以下、第1章でプリンストン大学の全体的な特徴を述べたあと、第2章でその学部教育を支える全体的な仕組みを解説する。続く第3章、第4章、第5章では、プリンストン特有の制度である Preceptorial system、Honor system、および Policy task force をそれぞれ解説する。第6章では、プリンストン大学の課題を指摘し、第7章では SFC の学部教育にとってどのような示唆が得られるかをまとめる。

## 1．プリンストン大学の特徴

### （1）研究系大学ながら学部教育最優先を標榜 （最高位の大学）

プリンストン大学の第1の特徴は、米国の全大学の中で総合的にみた評価が最高位にある大学であることである。例えば、米国 Newsweek 誌は、入学者の学力水準、教員の充実度のほか、学生対教員の比率、専任教員の比率、財務基盤の充実度合、卒業生による大学への寄付の多寡、といった多様な指標をもとに、毎年米国の全大学のランキング付けを行いそれを発表しているが、最近時点でのプリンストンの評価は、ハーバード大学とトップの座を分け合っている（付表1を参照）。

ちなみに、志願者の入学合格率は約10%にすぎず、最難関大学となっている（入学志願者は例年およそ12,000人いるが、そのうち入学が許可されるのはわずか1,150人とどまる）。

### （広大かつ美しいキャンパス）

第2の特徴は、創立の歴史が古い一方、広大でとりわけ美しいキャンパスを持つことである。同大学は、米国の独立より前に創立され（1746年創立と全米で4番目に古

い<sup>1</sup>)、建学後すでに 255 年を経過している。大学の本館 (Nassau Hall) は、米国独立前に建築された建物であり、歴史的建造物に指定されながら現在もなお使用されているのが印象的である (現に筆者が 14 年前に 1 年間の客員講師としてこの大学に赴任したときにも、新しく着任した教員全員を対象とした教員心得に関する会合がこの建物において実施された)。

一方、中心キャンパスの面積は 300 エーカー (約 36 万坪) と広大であり、また自然と建物が見事に調和している (physical beauty and agelessness)。木々の多さ、そして空間の確保は、静寂と精神的爽快さを与えており、学び、思考するうえで望ましい環境を提供しているといえる (キャンパス全体の概要は付図 1 を参照)。

(学部教育最優先が基本方針)

第 3 の特徴は、多くの有力大学が研究に重点を置く流れの中で、あくまで学部教育を最優先する方針を採っていることである (teaching is top priority)。例えば、ハーバード大学 (あるいはその他多くのトップクラスの大学) では、学部よりも大学院ないし研究を重視する方針が極めて明確であるが、プリンストンはそうした流れに抗して一貫して学部レベルの教育重視を標榜している。より正確に言えば、主要大学のなかでは、教育と研究を見事にバランスさせている大学といえる。

米国には学部教育に重点を置く小規模のいわゆる「リベラルアーツ・カレッジ」(教養学部系大学) も多く、それらには高い評判を得ている大学が少なくない (例えば Swarthmore, Bryn Mawr, Haverford, Wesleyan 等)。しかし、これらの大学は、教育面で高い評価を受けているにしても、研究面でトップクラスにあるという見方がされることはあまりない。この点、プリンストン大学は、研究主体の大学 (research university) と学部教育重視の大学 (liberal arts college) の二つの性格を兼ね備えた極めて珍しい存在 (a unique hybrid) である。こうした基本方針が不変であることは、機会あるたびに同大学の幹部によって強調されている。大学での学部教育は、学生が自らの新しい才能、スキル、個人的興味を発展させる場と時であり (college is a time of discovery)、それを助けるのが大学の役割である、という発想である。そして学部教育の核心は、学生が明晰に考え、明晰に話し、そして明晰に書く能力をどう身に付けるか (how to think, speak and write clearly) にある、とされる。つまり言葉のちからがすべての基本であり、それを身に付けることが大学教育の核心である、という考えである。

一方、研究面でも第 1 級の大学であることは、同大学在籍中にノーベル賞を受賞し

---

<sup>1</sup> 創立の古い順に挙げると、Harvard, William and Mary, Yale, Princeton である。

た教員が現在までに 15 名いることがそれを物語っている<sup>2</sup>。

#### (小規模かつ全寮制)

第 4 の特徴は、上記第 3 の特徴から導かれることであるが、研究系の大学に比べると大学自体の規模が格段に小さく、また学部学生は全員学寮に入って勉学する制度(全寮制)を採っていることである。学生数をみると、学部学生が約 4,600 名、大学院生が約 2,000 名と学部生が圧倒的に多く、学部学生の人数の点からいえば「アイビーリーグ」<sup>3</sup>のなかで 2 番目に小さい大学である。規模の拡大をあえて図らない、というのが長年の基本方針であり、また他の有力大学に通常設置されているプロフェッショナルスクール(ビジネススクール、ロースクール、メディカルスクール)も設置しないという方針を現在まで貫いてきている<sup>4</sup>。

また、教育は学生同士および学生と教員の間の人間的関係が基礎になる(大学は collaborative learning の場であり、competitive cutthroat の場ではない)との考えに基づき、学部学生には全寮制が適用される。学生寮はキャンパスの中に点在し、教室や教員研究室はすべてほどよい徒歩圏内に存在している(付図 1 において左側約三分の一の建物群が学寮である)。このように学寮が学部生生活の基本となっている点(residential college)は、英国のオックスフォードやケンブリッジの場合と同じであり、プリンストンの特徴でもある。

#### (きわめて贅沢な大学)

第 5 の特徴は、学部教育がきわめて贅沢なかたちでなされていることである。専任教員は合計 850 名にも達する。プリンストンの学生総数(上記のとおり学部学生 4,600 名、大学院生 2,000 名)は SFC のそれとほとんど同じであるが、教員数からいえば SFC に比べて圧倒的に贅沢である(SFC の専任教員数はプリンストンの八分の一の約 100 名)。しかも、教員は全員が大学院と学部の両方を教える(学部での授業を担当しない教員はいない)ことになっており、単に教員対学生の比率(faculty/student ratio)

---

<sup>2</sup> <<http://www.princeton.edu/pr/facts/nobels.html>>。因みにノーベル経済学賞では、W. Arthur Lewis (1979 年)、John F. Nash (1994 年)、Daniel Kahneman (2002 年)の 3 名の受賞者をだしているほか、数年後に受賞が確実視される Paul Krugman も現在ここに在籍している。

<sup>3</sup> Brown University, Columbia University, Cornell University, Dartmouth College, Harvard University, University of Pennsylvania, Princeton University, Yale University の東部 8 大学。いずれも米国における名門大学とされる。

<sup>4</sup> 厳密にいえば、プリンストン大学でもプロフェッショナルスクールに該当するものが現在 3 つ存在する(School of Engineering, School of Architecture, Woodrow Wilson School of Public and International Affairs)。しかし、これらいずれにおいても、学部学生の数が大学院生の数を上回っており、学部中心であるのが特徴的である。

が5 : 1と全米で最も恵まれた状況にあるだけでなく実体は他大学のそれを上回っているといえる。このため、教員数だけでなく授業内容面においても、学部学生の段階から各分野のフロンティアに接することができるわけであり、いかに学部教育が贅沢になされているかがわかる。

このため、学費は必然的に高額となる。学生にとって必要な学費は、授業料・寮費・寮食費・学生会費等を合わせて1年間に41,380ドル<sup>5</sup>、約440万円にも達する。ただし、入学後に必要となる資金は、個々の学生の必要に応じて給費奨学金（返済不要）、あるいは大学内での何かの仕事への従事<sup>6</sup>、のいずれかまたは両方によってまかなえることを保証する制度を2001年度以降導入している。それと同時に、従来の貸費奨学金（ローン）を廃止している。その結果、学生が卒業後に学費ローンの返済にわずらわされることのない学資制度になっている。

## （2）研究と教育を一体化する思想

大学関係者の間にある最も一般的な理解は、研究と教育（それらに割く時間）はトレードオフの関係にある（一方を立てれば他方は犠牲になる）という認識であろう。研究と教育のついで二分法（dichotomy）といえる。具体的にいえば、研究は教育よりも上位に位置づけられる任務であり、教育はいわばやむを得ない義務である（teaching is a nuisance）というわけである。それにもかかわらず、プリンストンでは、なぜ学部教育最優先の方針が有効に運用され、またそれが教員の間で現に受け入れられているのであろうか。

その直接的な理由は、プリンストンのほとんどの教員が学部教育に強いコミットメントをしており、またそれが教員相互間のプレッシャー（peer pressure）となっているからである。

しかし、より根本的には、プリンストンの教員は研究と教育の統合は可能であるばかりか、研究を進めるうえでそれが真に必要なと考えていることによるためである<sup>7</sup>、と思われる。例えば「大学において最も大切な学生（student）は教員（faculty）自身である。もし教員が学び続けていなければ、そして成長し続けていなければ、誰も学び成長することは出来ない」という見解がそれを示している<sup>8</sup>。本当の研究者であ

---

<sup>5</sup> Princeton University, Undergraduate Announcement 2004-2005, p.16.

<sup>6</sup> 仕事は、食堂、図書館、コンピューターセンター、その他一般事務などがあり、新入生の場合、一週間の作業時間は平均9時間である。

<sup>7</sup> この点は、プリンストン大学の基本的性格に関する大学幹部の理解を記述した書物、William McLeery (1986) Conversations on the Character of Princeton (Princeton University Press)を貫く基本的トーンであり、また筆者が接した限りでもプリンストン関係者がいだけ基本的理解である。

<sup>8</sup> ちなみに、米国の大学で優れた教育を行っていると評価されている相当数の教員（70-80名）

るには、知的謙虚さ (humility) が一つの不可欠の資質である、といえるのかもしれない。

一方、良い教員であるためには、教えるフロンティアを研究推進を通じて常に押し広げるといふ活動をしていなければならない (いつも他人の知的生産物を取り込んでいるだけでは良い教員になることはできない)、という理解も広くみられる。結局、教育 (teaching、education) とは、学生と教員の相互活動 (a very relational activity) であり、単なる研究活動とは異なり、個人的かつ心から満足感を得られる活動である、という認識がここでは支配的である、といえる。つまり大学とは、学生と教員が相互に教育しあう場所である (教員のモノログ方式とは正反対) という認識、つまり古代のソクラテス方式がこの大学を支配している、といえるだろう。このため、プリンストンでは教員と学生の一体感がきわめて強く「世界中で最も理想に近い大学」と評価する向きもある。

## 2 . 四年間の学部教育を支える仕組み

上記のような高い評価を得ているプリンストンの学部教育は、当然のことながら明確な仕組みが存在することによって初めて成立するものである。具体的には、最初の2年間 (1 - 2 年次) と後半の2年間 (3 - 4 年次) において、それぞれ特徴的な制度がある。ここではそれらを概観する。なお、全4年間を通じるプリンストン特有の制度 (Preceptorial system および Honor system) は、それぞれ第3章、第4章で述べる。

これらの制度のほとんどは、ウッドロー・ウイルソン総長 (プリンストン大学の第13代総長、のちに米国の第28代大統領に就任) が1905年前後に導入したものであり、その後多少の変遷を伴いつつも当初の骨格は何ら崩れることなく現在に至っているのが特徴的である。

### (1) 1年生用セミナーと履修科目分散規定

1 - 2年生のための制度としてとくに重要なものは、二つある。一つは1年生用セ

---

の考え方や教育方法を多面的に検討した調査結果が Ken Bain (2004), What the Best College Teachers Do, Harvard University Press として刊行されている。その調査結果によれば、大学教員が学び続けることによってはじめて教えることができる (よい教育者であるには良い研究者であることが必要条件である) ことが強調されている。

ミナー(Freshman Seminar Program)であり、もう一つは、履修科目分散規定(distribution requirements)である。

「1年生用セミナー」は、入学早々の早い段階で学生が教員と学問的な接触する機会を与えることを目的とした仕組みである。実施主体は学部(academic departments)ではなく各学寮であり、毎年およそ60種類ものテーマで実施される(最近のテーマは付表2を参照)。各セミナーの定員は15名以下に制限されており、教室での授業とは異なり、討議、小論文作成、発表などが重視される。内容は、通常の学科科目の色彩が強いもののほか、映画シリーズ、ゲスト講演、博物館見学、ワールド旅行などきわめて多様である。学生は希望するセミナーに対して1枚のエッセーを提出し、担当教員の選考を受けてそのセミナーを履修する。重要なのは、これが通常の授業の履修単位の一環として計算されること、そしてセミナーは大半が(大学院生によってではなく)学部長クラスを含む専任教員によって実施されること、である。これは、学部教育が緊密な人間関係の上で実施される必要がある、という認識を示す実例といえよう。

次に「履修科目分散規定」は、(1) 主要な学問分野についてその全体的な知識を与えること、(2) 早すぎる専門化を回避させること(discourage premature specialization)、を意図した履修規定である。学生は、ここで多くの科目に触れるうちに、3-4年生になったときに専攻する領域を見つけだすことが期待されている。これは、日本の大学における従来の履修システムのいわゆる「一般教養科目」履修を一定科目数以上求める制度と類似のものである(日本で戦後導入された新制大学のシステムはこれを模倣したものにほかならない)。

上記のほかに重要なものとしては、「論文執筆プログラム」(The writing program)がある。これは、論文執筆力の強化(Proficiency in English composition)を図るため、1年生全員に対して1学期間の履修を義務づけるものである。1セミナー(クラス)の人数は、教育効果を挙げるため12名以下と定めている。

いまひとつは、各学生に対する「学習指導教員配置制度」(Academic advising)がある。全ての1年生に教員アドバイザー(faculty advisor)があてがわれ、その教員から履修科目および学習上のことがらにつきアドバイスを受ける制度である。この制度は学寮を中心に組織されるので、英国オックスフォード大学の制度と類似したものといえる。ここで重要なのは、ここでの教員アドバイザーは1-2年次だけのものであり、3-4年生になれば、アドバイスすべき内容がより専門的になるので、学寮におけるアドバイザーではなく特定の学科毎(academic departments)のメンバーがアドバイザーになる点である。後者の教員アドバイザーは、次節でみる第3学年論文(junior paper)や卒業論文(senior thesis)についても指導を行うことになる。

上記の四つの制度は、いずれも充実度に差異はあれ、考え方としてはSFCをはじめ日本の大学においてもみられるものである。とくに「履修科目分散規定」は、戦後長らく日本の多くの大学で実施されてきたものである。しかし、日本ではいわゆる「教養課程と専門課程の分断」が生じたことから、今日では多くの大学でこの考え方は放棄されているのが実情であろう。この点、SFCはそうした分断が生じていないので、プリンストンと同様の制度がうまく機能する条件を備えているといえる（ただし現行制度が期待通り機能しているかどうかは検討の余地がある。課題と改善案は第7章で論じる）。

またSFCにおいて上記「1年生用セミナー」に相当するものとしては、「総合講座」あるいは「パースペクティブ科目」の履修がある。ただし、これらはいずれも大教室の「講義型授業」であり、セミナーでない点で性格は相当異なる。また「論文執筆プログラム」に相当するものとしては「テクニカルライティング」がある。ただし、これは必須科目ではないこと、また全てのクラスが十分に少人数で手をかけた指導ができる体制になっているかどうか、などにつき議論の余地があるように思われる。「学習指導教員配置制度」に対しては、SFCで1-2年生に対して設置されている「アドバイザー・グループ制度」が対応している。ただし、これは、学生個人に対してではなく学生グループ（20名前後）に対して一人の教員が割り当てられていることもあり、それが期待通り学習指導の機能を果たしているかどうかは、相当議論の余地がある。いずれにせよ、彼我の差異は考え方の差異によるというよりも、リソース（教員数、予算）面での圧倒的差異に起因する面が大きいといえよう。

## （2）卒業論文と第3学年論文

3-4年生にとっての中心的な制度は「卒業論文」(senior thesis)そしてその前段階としての「第3学年論文」(junior paper)である。これらは、学生が自ら選択したテーマについて自分で論文を仕上げる、あるいは新しいものを創作するという性格のもの(independent work)である。

「卒業論文」は、自分で選択したトピックについて教員アドバイザー指導のもとでオリジナルな研究論文を書く制度である。卒業論文は、最低文字数(単語数)についての規定はないが、概ね50-150枚程度の長さのものが要請され、卒業にとって全員必須である。全ての卒論は当大学の図書館に保存される。優秀な卒論は、学部単位で表彰する制度があるほか、大学全体での表彰もあり、また格別優秀な卒論は教員との共同執筆論文として発展させて専門誌に発表することもあるようである。

卒論の指導方法は多様であるが、学生と教員の会合は、最少の場合は学期に2度程度、そして多い場合は2週間毎に行われる（1回の会合時間は15分ないし30分）。

プリンストンの特徴は、卒論が選択制でなく全員必須である点である。ちなみに米国の他の大半の大学では、同様の卒論を"honors thesis"と称して一部の優秀な学生だけに書く機会を与える場合が多い(reward for a few)。プリンストンのように卒論を必須とし、かつ学生がそれに多大のエネルギーを投入する仕組みは、この大学の最大の特徴(defining feature of a Princeton education)とされており、現に多くの卒業生は「大学時代において最も貴重な勉学経験であった」(the single most valuable academic experience at Princeton)と評価するケースが多い(ある調査では全体の約40%がその旨を回答)。卒論指導は、専任教員にとって負担が相当大きいので、卒論アドバイザーは専任教員以外の教員(場合によっては博士課程大学院生)が担当する場合もある由である。ただ、教育リソースに恵まれるプリンストンですらこの状況であるので、他大学(とくに州立大学等)では、リソース面の制約から同様の制度を本格的に実施することは可能といえない、とみる向きが多い。

SFCに引き直していえば、上記「第3学年論文」は研究会論文あるいはそこでのチームペーパー(学期論文)に該当するとみることができ、また「卒業論文」は卒業製作に相当するものである。日本の多くの大学で卒論は必ずしも必須でないが、SFCがカリキュラムのうえで卒業製作重点主義を強める方向にあるのは、プリンストンの方向を指向しているといえよう。

### 3. プリンストン特有の制度(1) : Preceptorial system

プリンストン大学特有の制度として知られる代表的なものの一つは「Preceptorial system」と称される、講義内容補完のための少人数グループ討議の制度である(以下、プリセプトという)。これは、英国のオックスフォードやケンブリッジのチューター制度(tutorial system)に習ってウッドロー・ウイルソン総長(当時。後の米国大統領)によって1905年に導入されたものであり、現在でも学部教育の効果を挙げる重要な制度として、一般に人文・社会科学の全ての授業について実施されている。

学部の授業科目は、一般的には週2回の講義と週1回のプリセプト(したがって合計3回)から成る(あるいは週1回の講義と週2回のプリセプトで合計3コマの場合もある)。各科目ごとに週1回(あるいは2回)開催されるプリセプトは、学生にとって参加義務がある<sup>9</sup>。プリセプトは、大教室における講義の内容を、より深くあるいは

---

<sup>9</sup> 当該授業の最終的な成績評価において、プリセプト参加は相当程度考慮される。

はより広い視点から探求する機会を少人数のグループ討議によって提供することを意図している。

#### (1) プリセプト運営面での特徴

プリセプト運営上の特徴は、第1に、各プリセプトに参加する学生数を15名以下に限定していることである(現在の平均人数は12名)。例えば、最も履修者数の多い授業の一つである「経済学入門」(ECON 101)は履修者が330人に達しており、その履修者は25のプリセプトに分かれており、この結果、一つのプリセプトは、約13名になる。履修者は毎週1回そこで演習を実施している。なお、授業履修学生は、一般に大学院生担当のプリセプトよりも専任教員担当のそれに所属することを希望する場合が多いが、どのプリセプトに属するかの決定は、学生に選択権を与える場合もある一方、サインアップで早い者を優先する場合もあるなど、各種の方法が採られており一律ではない。

第2の特徴は、プリセプトで扱う内容は、講義内容の復習的なものだけでなく、関連した資料の輪読、特定テーマについての討議など、講義内容を敷衍する色彩が強いことである。このため、プリセプト担当者は、事前に学生に対して討議テーマを知らせて準備を促したり、あるいは逆に学生から討議テーマを募ったうえでそれを決めるなど、現在では事前のメールやり取りが相当なされている。

第3に、プリセプト担当者(preceptor)としては、当然多くの人数が必要であるので大学院博士課程学生がこれを務める場合が相当あるが、それに加えて講義担当教員を含めた専任教員もその役割を果たすことである。ちなみに、米国の多くの大学の学部科目においても、確かにプリセプトに類似した制度が比較的多くみられる(週3コマのうちのコマをdiscussion sectionと称して院生が担当する内容復習セッションとしている)が、プリンストンでは院生だけでなく専任教員がそのランクを問わず直接プリセプト担当者になっている点が大きく異なる点である。

そして第4に、プリセプト担当者の大多数を占める大学院生が適切にプリセプトで指導できるようにするため、大学が彼らに関連資料を幅広く提供するとともに、彼らを訓練するための組織を作っていることである。すなわち、大学は Handbook: Assistants in Instruction というマニュアル(全83ページの冊子)を作成し、ウェブ上でそれを提供している。また教員に対する教育方法の指導と改善、学生に対する勉強方法の指導、そして大学院生や博士課程修了者(プリセプト担当者等)に対する教育指導など、教育活動全般を強化するために特別の組織(The McGraw Center for

Teaching and Learning) を設置している<sup>10</sup>。さらに、学年度初め(9月)には、新任教員全員を対象とした教育の心得のためのミーティングも開催される(ここでは次に述べる honor system の説明も十分になされる)。つまり「教えることは学習することに他ならない」(teaching as a learning process)という考え方のもとに大学院生と教員が一体化し、ともに学部学生の教育に取り組むという発想(それは本質的に必要な面を持つとともに効率的でもあるという考え方)を基本としているわけである(付表4のウェブ記事を参照)。

## (2) プリセプトの運営方法と担当者の役割

プリセプトとは、グループ内で緊密に討議をする場(a highly interactive, discussion-based forum)という性格を持つ。つまり学生は、まず、講義内容をより深く理解することを議論することによって学ぶ。ものが本当に自分のものになっているかどうかは、それを第三者に説明出来るかどうか、によって判断できる。つまり、グループ討議という刺激の下で、自分の言葉によってそれを表現することによって授業内容の理解を深めること、これがこの制度の第一の狙いである。また、自分らの仲間の中で異なった見解を持つケースから学ぶことも、この制度によって期待されている。さらに、自分自身の見解に対して他者から挑戦を受けることにより、その見解を修正する、あるいはより確固たるものにするという機会を与える意味もある。つまりプリセプトは、考え方の相互交換と議論を通して自ら考える姿勢をお互いにつちかう場である(joint enterprise of learning from one another)。だから、それは自由対話によって理解を深めるソクラテス方式(the Socratic way)の現代版といえる。

プリセプトを効果的なものにするうえでは、プリセプト担当者の役割がきわめて大きい。その役割は、講義をすることにあるのではなく、また学生の知識を試すのでもない。そうではなく、学生グループをリードして討議させることにあり、それによって学生が課題の核心を理解し、また評価することを手助けすることにある。このため大学は、プリセプト担当者(Preceptor)は触媒(a catalyst)である必要がある、と規定し、次のようなことがらを求めている。

第一に、プリセプトを担当する科目は、その講義担当教員が行う全部の講義に出席すること、授業教材は全部読みかつ理解すること、そして学生のために自分自身のオフィスアワーを設けること、などである。そしてこれらは全体として非常に負担が大きいことを覚悟することがまず求められている。

第二に、次のような具体的な対応をすることが大切であるとされ、それらが要請され

---

<sup>10</sup> < <http://web.princeton.edu/sites/mcgraw/> >でその概要が説明されている。なお、上記の Handbook: Assistants in Instruction もここからダウンロード可能。

ている。

- 議論誘発的な問題提起 ( thought-provoking question ) によって開始する。
- 議論を整理する一方、批判的観点から厳密性な ( in a rigorous way ) 討議をする。
- 討議する課題に必ずしも解答がでなくともよい。
- 良い資料 ( テキスト ) を選択し、それを踏まえて幾つかの議論を建てる。
- 具体的な事実からより抽象的な結論に移行してゆく。
- プリセプト部分に関する成績評価は、学生の議論への質的貢献度合によって行う。
- 討議すべき論点はプリセプトの数日前に電子メールにより参加学生に送信する。
- 十分に準備する ( preparedness ) 一方、その場に則した議論展開 ( spontaneity ) も必要であり、両者をうまくバランスさせる。

第三に、異なる意見がでることが極めて大切 ( difference of opinion is invaluable ) であることが強調され、このためクラスをその方向に意識的に誘導することが求められている ( provoke different opinions ) 。

そして第四に、考え方 ( 意見ないし思想 ) に対して知的挑戦をすることが何よりも重要であり、プリセプト参加者 ( 学生 ) を個人的に攻撃するのは適切でないと言われる ( challenging ideas intellectually is crucial but challenging individuals personally is inappropriate. Challenge ideas, not people ) 。これは、単にプリセプト担当者にだけ求められているのではなく、プリセプト参加学生全体に対しても大学が明示的に求めていることでもある。

以上のようなプリセプト運営のもとに、学生は四つの知的スキル ( 要約するスキル、応用するスキル、統合するスキル、判断するスキル ) を身に付けることが期待されている。

### ( 3 ) 学生からみたプリセプトの評価

大学の認識としても、また学生からみた場合も、現在のプリセプト・システムは全体的によく機能しており、それが危機的状況にあるといった認識はない。ただ、その理念とすされいることが必ずしも十分に達成されていないのではないかという問題意識はある。このため、学生組織 ( student government ) が主体になり学部在学学生全員に対して 2001-2002 年にサーベイ調査が行われた。この調査は、電子メールによって学部学生全員を対象として実施され、1660 名から回答を得ている ( 回収率約 37% ) 。設問に対する回答は、項目選択だけでなく記述によるものも多いため回答量は全部で約 600 ページ相当に達するものとなった由である。調査チームはそれを分析する一方、学部長、関係教員、そして大学院生などに対して補足的インタビューを行ない、その結果を Report on the Status of the Princeton Precept System と称する 20 ページ

にわたる報告書としてまとめている<sup>11</sup>。この報告書の主要知見は次の点にある。

第一に、回答を全体としてみると、このシステムを高く評価する声が圧倒的に多いことである（全回答の約四分之三）。ただ、一部には「学生の精神的成長にとって期待したほどの制度ではない」「講義内容の確認作業にすぎない」との声もみられた。

第二に、学生の役割としては、議論への参加がプリセプト経験にとって重要な要素であるとする向きが、当然ながら圧倒的に多いことである（回答の72%）。このため、学生がプリセプトの事前準備（資料読み等）を十分行わないまま出席する場合には、プリセプトに期待される効果を下げの一因になっていることが指摘されている。なお、事前準備が不十分となる一因は、プリセプトのために指定された資料の分量が過大である、との指摘も少なくない。（このような多大な読書要求はアメリカの大学らしいことといえよう。）

第三に、プリセプト担当者のあり方に関しては、幾分批判的な意見が聞かれたことである。すなわち、議論を進める能力、事前準備の程度、熱意、啓発力など、担当者の能力面でかなりのばらつきがあることが指摘された。また、担当者が非英語圏出身者である場合には、英語による意志疎通に問題があるとの批判もでた。そして、学生としては担当者が院生である場合よりも専任教員である場合を好むこと、担当者が事前に討議テーマを電子メールで全員に発信するのは推奨できること、などの点も指摘された。

第四に、科目（講義）担当教授に関しては、その教授とプリセプト担当者の間での連絡の不十分さ、すなわちプリセプトの進め方に対して教授が適切な指示をだしていないこと（プリセプトは担当者まかせになっていること）に相当の批判がみられた。

そして第五に、一つのプリセプトの規模（学生数）は概ね11 - 15名であり、これはあまり問題とされなかった。

この調査委員会では、以上の知見をまとめた結果、現在のプリセプトは多くの学生を啓発し（inspiring）また知的刺激を与える環境を提供するという観点からは、幾分問題を抱えていると判断し、幾つかの改善提案を示している。それらは次のとおり。

- プリセプトを担当する全ての大学院生に教育方法のトレーニングを義務づける。
- プリセプト担当者と講義担当教授が会う機会（現在はmentoring programとして毎週1回昼食会を持つことが支援されている）を拡充する。
- 優秀なプリセプト担当者を表彰する制度を設ける。
- 学期中間時点でプリセプト担当者を評価する制度を設ける。

---

<sup>11</sup> 報告書全文は<<http://www.princeton.edu/usg/docs/precept.html>>から入手できる。

#### (4) プリセプト・システムの評価

以上から明らかなように、プリンストン大学のプリセプト制度は学部教育にとってきわめて重要な役割を果たしていると評価できる。とくに、教育は教員と学生の緊密な接触によってこそ大きな効果が得られること（教育手作りの必要性）がこの制度に集約されているように思われる。

一方、それを可能にするには当然ながら投入リソースが不可欠であることも同時に指摘できる。この大学の場合、まず学生一人あたり教員数が潤沢である（日本の私立大学に比べて 3-8 倍の教員数を確保している）。また教員や院生の教育力を向上させるための専門的組織を維持することも含め、440 万円もの年間学費を必要としている。結局、大学にどのような学部教育を期待するかは、学生（そして学生の両親）の金銭的負担と、期待する教育効果のトレードオフの問題ともいえる。つまり、学生ないし学生の両親がそうした多大のコストを積極的に負担する用意があるかどうか、それとも、例えばプリンストンの半額程度で済む現在の日本の私立大学のあり方のいずれを選択するか、という選択問題という性格を持つ。また大学教育（公共財的性格を持つ）に政府がどの程度財政的支援を行うかという根本的問題にも関連することである<sup>12</sup>。

このようにみると、プリンストンの優れた制度を直ちに SFC あるいは日本の大学に移植することは、少なくとも短期的には実現可能性が乏しいといわざるを得ない。ただ、幾つかの示唆は得られる（第 7 章でまとめて述べる）。

## 4. プリンストン特有の制度（2）：Honor system

プリンストン特有の今ひとつの制度は「Honor system」と称されるものである。これは、全ての筆記試験は学生の正直（honesty）を前提とし教員による試験監督なしで実施する、という驚くべき制度である<sup>13</sup>。筆者の知見によるかぎり、研究面で著名な米国の他の大学のなかでは同様の制度を持つ大学は全く存在しない<sup>14</sup>。そしてこ

---

<sup>12</sup> プリンストン大学が連邦政府からどの程度の資金援助を受けているのかは重要な調査課題であるが、今回は調査する余裕がなかった。この情報は同大学のウェブ上にも見当たらない。

<sup>13</sup> この制度については、すでに述べたことがある。岡部光明（2000）「正しさを追求する姿勢」『大学教育と SFC』（西田書店）を参照。なお、これはウェブ上にも掲載してある。  
<[http://web.sfc.keio.ac.jp/~okabe/essay/rightful\\_and\\_just.pdf](http://web.sfc.keio.ac.jp/~okabe/essay/rightful_and_just.pdf)>

<sup>14</sup> ただし、小規模のリベラルアーツ系大学のなかには、同様の制度を持つ大学もある。例えば“Seven Sisters”と称されるグループ（米国東北部に所在し高い評価を得ている 7 つの小規模大学）の一つである Bryn Mawr College では、筆記試験は教室で行われるのではなく、学生が各自持ち帰って、しかも学生自身の都合の良い時間帯に試験監督なしの状態を実施する

の制度も、プリセプト制度と同様、ウッドロー・ウイルソンが同大学総長であった時代に導入されたものである。

### ( 1 ) 宣誓制度の意味と導入の経緯

これは、筆記試験中の学生の行動に関する全ての責任は学生自身が負う、との考え方を基礎とするものであり、筆記試験を行う場合、教員は試験問題を配布したあとは自室に帰り、試験終了時になってから再び試験実施教室に戻って解答用紙 ( bluebook ) を回収して持ち帰るといった制度である。つまり、筆記試験中には試験監督者を一切配置しない ( examinations are not proctored ) という思い切ったシステムである。これは全ての筆記試験に適用される。

こうした方法による試験が誠実に実施されるためには、当然その規則 ( Princeton Honor Code ) <sup>15</sup>が明定されており、この規則を受け入れることが全ての入学許可者にとってプリンストン大学入学の条件とされている。すなわち、学生は「私はこの試験中に他人に手を貸したり、あるいは他人から手を貸してもらっていないことを私の名誉にかけて誓約します」<sup>16</sup>という一文を答案用紙に署名する義務が負わされている ( 名誉ある宣誓制度といえる )。この制度は、100 年以上も前 ( 1893 年 ) に創設され現在でも生きているものである。ここで重要なことは、制度を発案したのは教員でなく学生側であり、それが大学の公式制度として確立された点にある。このため、違反者は、学生の代表によって構成される懲罰委員会にかけられ、その委員会が教授会に対して当該学生の停学ないし退学を発議して処分される仕組みとなっている。罰則としては、1 年間の休学 ( 最も多いケース )、あるいは2 年間、3 年間のそれがあり、2 度目の違反をすれば退学処分となる。

### ( 2 ) 宣誓制度の評価

この制度は、ルールとしてよりもむしろ誠実さと名誉ある振舞いという高い精神性に大きな意味があるとされており、プリンストン大学の関係者は、これを教育上大きな意味を持った高貴な伝統として語ることが多い。

果たして、これがどの程度機能しているのか。これはきわめて興味深い点である。幸い大学の公式ウェブページにはその実体情報が掲載されている。それによれば、毎年およそ 15-20 件が規則違反の疑念で審査され、うち 3-5 件程度が規則違反と判断さ

---

( unproctored self-scheduled and take-home exams ) という形態で行われている。なお、この点は、Bryn Mawr College 留学中の木村暁穂君 ( 岡部研究会所属 ) の指摘による。詳細は <[http://www.brynmawr.edu/deans/honor\\_code.shtml](http://www.brynmawr.edu/deans/honor_code.shtml)> を参照。

<sup>15</sup> その全文はウェブ上にも掲載されている。 <<http://www.princeton.edu/honor/>>

<sup>16</sup> "I pledge my honor that I have not violated the honor code during this examination."

れて処分されているとのことである。つまりこの制度は、強い実効性を伴って実施されているといえよう。

以上の宣誓制度は教室で行われる試験に関するものであるが、より広く勉学や授業全般に関しても、同様の趣旨である「学問上の誠実性」(academic integrity)が制度化され、学生に求められている。すなわち、論文執筆に際して他人の論文を盗用ないし剽窃した場合には厳しい罰則が伴うこと、などの規定である。ただ、これは何もプリンストンに限ったことではなく、その他の大学や日本の大学でも当然規定されているものである。したがって、プリンストンのユニークさは、やはり筆記試験に関する監督者不在制度にあるといえる。

## 5 . プリンストン特有の制度 ( 3 ) : Policy task force

以上述べた二つの制度は、プリンストン大学全体に関するものであるが、ここでは社会科学系ないし政策系の学部教育に特徴的である同大学の一つの制度を採り上げ、解説する。

### ( 1 ) 政策志向のウッドローウイルソン・スクール

プリンストンには、SFC 総合政策学部にきわめて類似した「ウッドローウイルソン・スクール」(Woodrow Wilson School of Public and International Affairs)<sup>17</sup>という、公共部門および国際問題を扱う学際的な学部がある(学部のほか大学院も博士課程まで整備されている)。学部案内によれば、この学部は「問題解決を強調するとともに政策指向型である」(policy-oriented and emphasizes problem solving)点に特徴があり、まさにSFC 総合政策学部に酷似している。

一般にプリンストンの学部学生は1-2年次には「専攻科目」(major)を持たないが、3年次に進級する時点でそれを決める必要がある。その時点において、ウッドローウイルソン・スクール(以下WWSと略す)への所属を希望する学生は志望理由書を提出し、その中からWWSの教員が学生を選別して所属を許可する仕組みとなっている。WWSへの進学(3-4年次における在籍)は人気が高いが、収容人数は毎年約90

---

<sup>17</sup> 詳細は<<http://www.wws.princeton.edu/>>を参照。なお、筆者はかつて(1990-91年度)ここで客員講師として1年間教壇に立った経験があるが、当時担当したのは大学院の授業であった(学部の授業には関与しなかった)ので、学部教育については今回やや詳しく調査する必要があった。

名に限定される。

WWS では、多様な授業科目が提供されている。それらは政策ないし国際問題に関連する学科との相乗り授業 (code share) も少なくないが、WWS 独自の授業科目も相当多い。後者の中では、とくに学部生に対して「Policy Task Force」というユニークかつ必須の科目を設けていることが注目される。これは、政策立案に関する実地調査研究セミナーとでもいうべき科目である (以下では「政策立案セミナー」と呼ぶことにしよう)。

## (2) 政策立案セミナーとその運営

「政策立案セミナー」の目的は (1) 重要な国内問題ないし国際問題に対する政策のあり方を学生が能動的に探求する機会を与えること、(2) インタビュー、口頭発表 (public speaking)、グループ研究、意思決定の訓練、などの機会をあたえること、にある。

政策立案セミナーは、毎学期約 10 科目 (コース) が開講される。3 年生は、秋学期、春学期それぞれ 1 つのコースを履修する。3 年次に求められる第三学年論文 (前述した junior paper、略称 JP) はこの「セミナー」の成果として執筆し、また 4 年次に執筆する卒業論文 (senior thesis) の内容も通常はこのセミナーで扱うことと一体化したものになる。

このセミナーは、専任教員あるいは特定分野の専門家 (招聘教員、visiting faculty) の指導のもとで学期単位で完結する活動を行う。一つのセミナーの定員は 8 名程度に限定されており、密度の高いグループ作業をすることを前提としている。テーマとして提示された問題の解決および政策立案に際し、履修学生はどんな領域 (any intellectual discipline) の発想でも、あるいはどんな技法 (skill) でも自由かつ弾力的に活用することが奨励される。各セミナーとしての会合は週 1 回、長時間にわたって持たれる (すべて夜 7:30-10:00)。

セミナー担当教員 (faculty director または guest lecturer) は、学生に対して (1) 当該問題分野の基礎知識 (background information)、(2) 関連文献 (bibliographic references)、(3) インタビュー先についてのヒント (ideas of possible interviews) などを提供するが、分析、政策の構成、そして最終レポートについては学生が全責任を持つことが要請されている。

そして、政策に関する調査立案の最終結果は、レポートとして取りまとめる。その場合、3 年生が執筆するすべてのレポート (JP) は、素稿の段階で担当教員が読むとともに、チーム (当該セミナーの履修者全体) によって討議され、必要に応じて内容が改定される。一方、チーム全体としての成果は、政策提案 (policy recommendation)

を伴った最終報告書として完成させる。

### (3) 政策立案セミナーのトピック

政策立案セミナーで採り上げられるトピックは、通常、論争の的になっておりかつタイムリー (controversial and timely) なものである。したがって、毎年異なるテーマとなる。ちなみに、2002 年春学期の場合のテーマは次のとおりである。

- American electoral reform.
- The future of news.
- International investment, environmental safeguards, and fair labor practices.
- The future of nuclear power.
- Prescription drug coverage in medicaid and medicare.
- Gender and education in Islamic countries.
- Human rights and the response to terrorism.
- After-school programs and at-risk kids.
- Assisted reproductive technologies.

「問題発見・問題解決」型の教育を指向する SFC にとって、上記の科目は興味深い仕組みといえる。SFC で直ちに同様の科目を設置する必要性もまた現実性もないが、カリキュラム改革に際してヒントになる面も少なくない (関連する具体的提案は第 7 章で述べる)。

## 6. プリンストンにおける幾つかの課題

以上みたように、プリンストン大学とその学部教育は、率直に言ってすばらしい。またキャンパス、学園環境、学生数に対する教員数の多さ、多様性など、多くの面でうらやましいものがある。理想的なキャンパスと教育である、といえるかもしれない<sup>18</sup>。ただ、問題ないし課題もむろんある。

一つは、この大学特有の有効な教育制度であるプリセプト制度においても、前述し

---

<sup>18</sup> キャンパスガイドの学生に「プリンストン大学の問題点は何か」と質問したところ、問題点はなかなか思いつかないという風情であった。しばらくの後、その学生は以下で述べる二つの点を問題点として指摘したのが印象的であった。

たような課題が残されていることである。例えば、プリセプト担当者のいかんによって当該プリセプトでの学習に対する評価に相当差異が生じていること、あるいは講義担当教員とプリセプト担当者の間の意志疎通が必ずしも十分になされていない場合もあること、などである。これらに対して大学は種々改善を図りつつあるように見える。

二つめは、1 - 2 年生と 3 - 4 年生が居住面でもまた意識の面でも幾分分断されていることである（日本の多くの大学に則していえば、教養課程と専門課程が統合されず分離した状態にあることに相当する）。これは一つには、プリンストンでは 1 - 2 年生用学寮と、3 - 4 年生用学寮が別れており、上級生と下級生の接触が多少妨げられている面があることに原因がある。この状況を改善するため、大学は従来型の学寮に加え、1 - 4 年生が共同で居住する新しい学寮を目下建設中である（2006 年完工予定）。なお、この点に関していえば、SFC は各学年次の学生が色々な面で継ぎ目なくつながっているので、優れたキャンパスといえよう。

三つめは、授業料など在学习コストが非常に高額であることである。学生にとって年間経費は約 440 万円にも達する（郷里との往復交通費等は除く）。これは、前述したように大学教育に関する基本的考え方の問題に帰着する。

四つめは、現代社会を特徴づける情報通信技術（ICT）とその利用に関する教育が独立かつ重要な科目としては組み入れられていないようにうかがわれることである。SFC のカリキュラムを基準にすれば、プリンストンではいかにも伝統的科目が中心になっているという印象がある。ただ、ICT のスキル習得は色々な授業科目のなかになんとかと組み込まれており（integrated in the curriculum）、このため別途独立した科目として教える必要性は乏しい、というのが一般的認識であるように思われる（例えば筆者の質問に対して admission officer はこのように答えた）。ちなみに、この ICT 環境は学生にとって十分に整っているように見える（多くの学生や教職員が集まるキャンパスセンターではデスクトップ型コンピュータが多数配置され自由に使用できるようになっているほか、学生は自分の PC を持ち歩いており、SFC の風景と変わるところはない）。

五つめは、ここでは、歴史的にもまた現在でも徹底したリベラルアーツ型教育の方針をとっていることである。それは SFC 型の問題発見・解決型の教育とは相当異なるものである。リベラルアーツ型教育（その場合には premature specialization は回避させる方針が採られる）と、そうでないタイプ（科目履修に高い自由度を与えるとともに premature specialization も許容ないし奨励する。即戦力型教育という面も持つ）はいずれが望ましいのか。その優劣に対する解答は、学部教育のあり方の基本思想に関わる問題であり簡単に断定的結論をだすことはできない。どちらが究極的に望ましいのかは、学生が大学を卒業した後、長年月を経てはじめて回答がでる性質の問題で

ある、という以外にあるまい。

## 7. SFCの学部教育についての示唆

プリンストンの学部教育システムから、SFCの学部教育にとってどのような示唆が得られるだろうか。むろん、二つの大学ないし学部教育システムの間には大きな差異があるのでこの答えは容易ではない。

例えば、プリンストンは全寮制であるのに対して、SFCはそうではない。また、学生に対する教員の指導可能密度を示す学生対教員比率をみても、プリンストンは全米で最も恵まれた状況にある（5対1）のに対して、SFCでは一人の教員が相手にする学生数はプリンストンの7-8倍に達するのが実情である。さらに、プリンストンでは学生の卒業比率（4年間勉学後に順調に卒業する比率）が97%ときわめて高く、SFCは残念ながらこの面でもやや及ばない。そしてSFCは大学予算面における制約も大きい。

これらの事情を考えると、プリンストンの優れた面をSFCに取り入れようとしても、出来ることと出来ないことが出てくるのは当然である。ただ、SFCのカリキュラム改善にとって幾つかのヒントは得られる。そこでどのような点がそれに該当するかを整理することとしたい。ところでSFCは、ごく最近（2005年1月-2月）全在生に対してSFCカリキュラムに関する調査（特別調査）を行った。その結果が一応集計できているので<sup>19</sup>、まずその要点を筆者なりに整理し、ついでその結果も併せて考えることにしたい。

### （1）SFCカリキュラムに関する対学生アンケート調査

今回行われた調査は、SFCのカリキュラムに関する在学生対象アンケート調査のなかで、多分これまでで最も網羅的かつ回答分量の多い調査である。調査対象はSFC在学中の1-4年生であり、回答はウェブ上に書き込む方式によって実施され、847人から回答を得ている（回答率20%）。質問は選択肢から選んで回答するものと、文章記述によって回答するものの両方があり、回答結果は合計約18万字、プリントすれば約180ページ（およそ書物1冊分の分量）にも達する膨大なものである。

調査内容は多岐にわたるが、これは2001年度に実施された大幅なカリキュラム改

---

<sup>19</sup> 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（2005）「カリキュラムに関するアンケート（学部生対象）全体調査」授業調査（特別調査）結果。[内部資料]

革すなわち「SFC version 2.0」導入につき、その基本的意義を学生の観点から総合的に評価するものといえる。そこにおいては、とくに、

- (1) 学習領域群として束ねられた「クラスター」が科目履修上ガイドラインの機能を果たしているか、
- (2) 科目履修のうえで学年制を事実上廃止し自由化したことが意図したとおりの望ましい結果をもたらしているか、
- (3) 勉学ことに学部での専門的研究は、教員（ひと）に就いて行うよりもむしろ研究プロジェクト（こと）を巡って行うという考え方（「研究会」を「研究プロジェクト」に名称変更したことに象徴される）が成功しているか、

といった点の評価が特に重要であろう。調査結果は多面に亘っており、したがって単純にまとめることはできない。ただ、筆者が素読する限りでは、新カリキュラムの長所が種々指摘されている一方、次のような点が今後の課題として浮かび上がっているように見える<sup>20</sup>。

（浮かび上がった幾つかの課題）

第一は、クラスター制は、その意図が学生からみて不明確である一方、SFC が標榜する「問題発見・解決」型教育システムもクラスター制を軸に機能する構造になっていないことである。現に、回答した学生の過半数は、クラスターは現時点での履修上役に立っていないとしている。「問題発見・解決」型教育、あるいはSFCの「専門性」は、既存の学問分野の知識習得にあるのではなく問題発見・解決能力の習得にこそあることを標榜する以上、すべてのカリキュラムはこの1点を基本尺度として再構築する必要があるのではないだろうか。

第二は、科目履修のうえで学年制を廃止した結果、多くの授業において例えば1年生と4年生が同時に履修する現象が発生し、それが結果的に授業の内容およびレベルに歪みをもたらしている（難易度や専門性の点で少なからぬ数の授業が中庸化している）可能性があることである。これはまた、汎用科目、専門科目、クラスタ科目の意味やそれらを通した科目構造の不明確さを強める一方、難易度の展開（基礎的内容から専門的内容への発展、progression）も適切に設定されていない、という学生の認識につながっている。さらに、これらの結果、履修科目が系統だっていない、相互関

---

<sup>20</sup>以下はあくまで筆者がこの集計結果から得た個人的感想である。カリキュラム改善委員会としては、まずこの調査結果をていねいに分析し、全体として何が読み取れるかを報告書としてまとめること（改善すべき課題について共通の理解をえること）が必要かつ第一のステップであろう。調査結果には、当然のことながら瑣末な意見が少なくない一方、本質的な意見も含まれており、それらを識別し整理する必要がある。そのためには、例えばアゴラ（討議のための全員教員集会）を一回ならず開催することを考慮すべきであると思う。カリキュラム改善の具

連が不透明である、といった認識（科目間の系統性の欠如）も生じている面がある。

科目履修における学年制廃止は、確かに 1-2 年生や一部の意欲的な学生からは評価されているが、一方 3-4 年生を中心にやや批判的な意見も少なくない。この問題に対しては、科目群の系統化や明確化（例えば専門科目とクラスター科目の統合）、難易度や専門性における自然な履修展開の確保（例えば事前履修科目の充足条件厳格化）などの方向で検討すべきであろう。

第三は、1-2 年生のうち科目履修の自由度がきわめて高いので学生の満足度が高いが、3-4 年生になるとその差が学生毎に大きくなり「専門性」のなさ（広いが浅い）をなげく声が増えることである。この原因は、従来から指摘されている総合政策学の従来の意味における「非専門性」という性格を反映している面があるだろうが、そのほか上述した講義科目の「中庸化」、科目履修（卒業要件）における特定領域集中の不要性、卒業制作（卒業論文）の非必修制、といったカリキュラムのあり方も影響していると思われる。もしそうであるならば、学生が SFC で「専門性」を身に付けたと自信がもてるようなカリキュラムを工夫し、それに向かって改善することが必要かつ適切である。こうした方向への改善の余地は相当あると思う。

第四は、上記第三のことと関係するが、学生はカリキュラムないし授業方式が、専門性をより高める方式に変更されることを期待していることである。たとえば、現在最も専門性を身に付けることができる場とされる「研究プロジェクト」（以前の研究会、いわゆるゼミ）に高い評価を与えているが、各学期において履修可能な研究プロジェクトの数を増やしてほしいという希望が相当多く寄せられている。また卒業論文を必須化すべし、とする意見も全体として根強く存在する（むしろ非必須の継続を求める声もあるが）、さらに、授業の方式として、現在の原則週 1 回の授業を毎学期多数履修するという方式から、1 科目週 2 回程度の履修にするとともに必要履修科目数を減らすべきである、との声も少なくない。

これらを全体としてみると、学生は（とくに 3-4 年次においては）「広く浅い」方式ではなく、基礎学力の充実および専門性の両方を求めていること（あるいは現在の方式では「カルチャーセンター」的な学習しかできず基礎学力が十分身に付かないという認識）がアンケートから読み取れるように思われる。これらの要請に対し、カリキュラム改善で対応するのはさほど困難でなく、また非現実的でもないので、しかるべき対応が必要である。

第五は、SFC Version 2.0 のカリキュラムでは、学部での専門的研究は「教員（ひと）を取り巻くゼミナールという人的つながりを重視した形式よりも、むしろ研究プ

---

体化は、その次の段階にくるべきものであろう。

プロジェクト（こと）に学生が参加しそこでの活動を通して行うほうが研究の先端的部分に常時触れるので望ましい」という考え方が導入されていたが、それはあまり支持されなかったことである。端的にいえば、従来「研究会」と呼んでいた授業科目（人的集合体を示唆）を新カリキュラムでは「研究プロジェクト」という名称（人的要素よりも活動に重点があることを示唆）に変更したが、その発想は受け入れられるものとはならなかった、といえる。

現に、このアンケート調査の文章記述式回答においては、ほとんどの場合「研究プロジェクト」のことを学生自身「研究会」と表現しており、またわれわれ教員も通常は依然として「研究会」と呼んでいる。つまり、学部教育は抽象的な「プロジェクト」によって遂行されるというよりも、もっと人間的側面（人的要素ないし属人性）が現実には重要であることが大切であることが示唆されている。つまり、SFC のように多様な履修科目がある状況の下での履修科目選択においては、学生にとっては、各教員、各研究会の実態が最も信頼できる指標になる。SFC では従来、属人的要素をできる限り排除しようとする方針がとられてきたが、この点は再検討が必要であり、むしろその観点をカリキュラム上取り入れることは検討に値しよう。例えば、研究会として履修推奨科目を掲げることによって学生にガイドラインを提供するとか、研究会、研究会推薦科目、領域（現在のクラスター科目）を有機的に関連づける、といった工夫の余地が相当あろう。

第六は、学生が履修科目を決めるに際し、アドバイスを受ける仕組みが欠如していることに対して学生は不安と不満をいただいていることである。SFC 創設時から存在するアドバイザリー・グループの仕組み（学生 20 名程度をグループとして一人の教員がアドバイザーの役割を果たす仕組み）は、残念ながら学生が履修科目を検討し決定するうえでは全く機能していないことがうかがわれる。むしろ、SFC としては「学習指導」担当教員の制度を持っており、制度上は一応の対応ができています。しかし学生はそれを十分に利用しているわけでない。アドバイザリー・グループあるいは学習指導担当教員制度の改革など、学生の履修科目決定が適切にできるような制度を工夫する必要が大きい。

## （２）SFCの学部教育についての示唆

プリントンにおける制度と SFC カリキュラム上の課題の二つを重ね合わせると、SFC にとって次のような制度改善を検討課題として指摘できよう。SFC でのカリキュラム改革の議論を活発化するため、以下あえてやや具体的に列記してみたい。

( 専門性強化の方策 )

大きな方向としては、まず「専門性」を強化するための改革を挙げることができる。

具体的事項の第一は、プリンストン ( senior thesis を勉学の総決算として位置づけ ) のように卒業制作あるいは卒業論文を必須化することである。SFC の Version 2.0 はすでにこの方向 ( 卒業制作中心主義 ) を指向しているが、それを制度的にもまた実体的にも一層明確化、強化する必要があるのではないか。例えば、研究会は必須にしないまでも従来以上に履修単位数を配分する ( その一方で教員の授業持ちコマ数を減らす ) などが検討できるかもしれない。

第二に、SFC の授業科目はここ数年間でその内容や難易度 ( レベル ) が前述したように全体的に「中庸化」あるいは水平化する傾向にあるが、それを実体的にいま少し垂直化する方向で改めることである。SFC は ( プリンストンと同様に ) 1 - 4 年生が全員同一キャンパスで同一教員から学ぶことができる長所を持っている。この環境の中でも厳然と垂直性を維持しているプリンストンに習い、授業科目の内容や難易度をより適切に構造化 ( progression と structuring ) するという対応が不可欠ではないか。例えば、事前履修科目 ( prerequisite ) の充足条件を現在よりも厳格化することはその第一歩になる。その場合、担当教員による対応 ( 反省 ) が求められるほか、それを保証する制度的な整備も必要になろう。また各科目につき、この観点からみた位置づけが妥当なものとなっているかどうかを総点検すること、さらには汎用科目、専門科目、クラスター科目という区分を全面的に見直すこと、なども場合によっては検討すべきであろう。

第三に、全授業を週 2 コマ化 ( あるいは必要に応じて一部は 3 コマ化 ) することである。確かに SFC でも、外国語関係の授業のほか、一部の授業ではすでにこれが実施されている。しかし、大半の科目は伝統的に週 1 コマである。広く ( つまり多くの科目を ) 浅く履修させるのは、一見視野を広げるようにみえるものの基礎学力や専門性を習得させるには適したものといえないのではないか。

プリンストンではもとより米国の大学では、通常の学部科目を週 1 コマ対応にするということは全く考えられないことであり、全科目が原則週 2 コマないし 3 コマである。SFC の授業科目もこの方向で改革することが強く求められていると思う。そうするには、むろんリソース面での制約がある ( 専任教員の授業負担を現在以上に増大させることは不適當であり、また現に可能ともいえない )。しかし、一コマ目を講義とした場合、二コマ目の授業は ( 1 ) 当該授業の内容理解を深めるないし発展させる趣旨のコマとして位置づける ( プリンストンにおけるプリセプト、あるいは米国の大学で一般的に discussion section あるいは problem solving session としてみられるコマと同様のものを設ける ) ( 2 ) その指導は、すでに一部の SFC 授業で行われているよ

うに大学院生（あるいは外部講師）を積極的に活用する、という対応をすれば実現できよう。

第四に、研究会履修者が卒業制作を行う場合、研究会担当教員は、その指導をも併せて行うこととし、この面で教員に追加的教育負担を負わせることである（卒業制作を必須にすれば当然その履修者が増加するので研究会担当教員の負担は現在よりも増加する）。むろん、教員のその負担増分は他の面での負担軽減と見合うような工夫をすることも同時に行う必要がある（講義種類の統廃合など）。卒業制作を必須にする場合、当然そのための指導体制をつくる必要があるが、SFC では、プリンストンのようにそのための担当教員を新たに指定する必要はない。確かに個別指導（tutor 制）にはならないものの、現在の研究会（集団指導）の機能を拡大することによって、より多くの学生に個別的要素の強い勉学の機会を与えることが可能になろう。これは、SFC の教育における人的要素を従来よりも強化する面で望ましいといえる。

第五に、プリンストン大学（ウッドロー・ウィルソン・スクール）で実施されている学部レベルの「政策立案セミナー」（Policy Task Force、詳細は第5章で述べた）に類似した科目を導入することである。すでにこれに類似した授業形式を取り入れた授業を行っている例（教員）も SFC にはなくはないが、（1）従来の研究会の運営方式変更によってこれを実施する、あるいは（2）新規プロジェクト科目としてこのスタイルの科目を設置する、のいずれかによって導入することが望ましい。そして、この政策立案セミナー、または（従来の）研究会のいずれかを必須科目にすることが考えられる。

それによって学生は、実地経験によって得た政策立案能力ないし「専門性」を獲得する（政策立案セミナーを履修する場合）、あるいは専門性の高い科目履修をする（研究会を履修する場合）、のいずれかができ、専門性を身に付けることになる。なお、政策立案セミナーの担当は、専任教員があたってもよいが、プリンストンの場合のように、外部の政策担当者（政府や各種組織における専門知識をもった担当者）を特別招聘教員として採用するのがよかろう。それは、政策企画の現場性（臨場性）を持たせるだけでなく、専任教員の負荷増大を回避できるからでもある。まあわた、このセミナーの成果をまとめて対外的に出版することも大きな意味をもつであろう。それを体系的に公表する具体的な仕方も併せて検討すべきだと思う。

（学部下級生のための方策）

以上は「専門性」強化という観点からの提案（したがってまっばら学部上級生用）であるが、その他に学部下級生用のカリキュラムについても、いくつか導入を検討すべきことがらを指摘しておきたい。

一つは、アカデミック・スキルを向上させるため、プリンストンでの Writing Seminar にならい、論文執筆を指導する科目（セミナー形式）を大幅に拡充すること、そして少なくともいずれか一つの学期においてそれを必須にすることである。現在も類似した科目がすでに存在するが、履修希望者に比べるとそのクラス数が圧倒的に不足している（学生の要望も強い）。なお、口頭発表（プレゼンテーション）を指導する科目（セミナー）も導入ないし拡充するのが望ましいが、まずは論文執筆という基本スキルの習得を徹底すべきであろう。

いま一つは、プリンストンでの Freshman Seminar に類似した科目（セミナー）を新規に導入することである。新入生が研究者と直接（少人数のグループながら）接触する機会を設けることは、大きな意味がある。現在のカリキュラムでは、総合講座と称する大教室での講義、ないしアドバイザーグループと称するアカデミックとはいえないグループ別指導が制度的に存在するだけであり、新入生にとって真剣な学問的接触の機会（truly academic opportunity）はカリキュラム上欠落している。新入生が後者の機会に恵まれていれば勉学上大きな意味を持つ。しかし、現在は SFC を含め多くの大学ではそうになっていないので、学生が入学後まず初めに失望する現実になっている、といわれている。この問題は是正することが必要であり、それは総合講座とアドバイザー・グループ（の二つに注がれている教員の時間的労力的負担）を統廃合することによって可能にする方途を検討すべきだと思われる。

（全学年に関係する幾つかの改革）

最後に、全学年に関係する改革を二つ提案しておきたい。一つは、上記アンケート調査に強く現れていたように、SFC では学生がどの科目を履修すべきかを指導する体制が実際には機能していないので、プリンストンのように履修科目に関する教員アドバイザー（academic advising）制度を確立することである。その場合、1年生にとってのニーズと上級生にとってのそれは異なる（後者ではより専門的な観点からのアドバイスが必要となる）ので、これまたプリンストンにならい二つのタイプのアドバイス機能を設けるのが適切であろう。

いま一つは、プリンストンが誇りとする特有の制度、すなわち全ての筆記試験は教員による試験監督なしで実施する宣誓制度（honor system）を導入することである。むろん、SFC で現在これを実施する必然性は乏しい。また、SFC の期末試験等の試験時間は 1 時間内外であり、この間に教員が個人研究室に戻ったあと答案回収のために再び試験実施教室に出かけるというのは、効率的ともいえまい。しかし、この制度によって誠実さ（integrity ないし honesty）を理解させ身に付けさせるという教育面の効果は大きいものがあるだろう。プリンストンだからといって学生が聖人ばかりという

わけでもない（前述したように毎年およそ 15-20 件が宣誓制度の規則違反の疑念で審査され、うち 3-5 件程度が規則違反と判断され処分されている）。SFC で実施する場合、いきなり全部の筆記試験にこれを導入する必要はない。しかし SFC は万事实験キャンパスの性格を持つ以上、一部科目ないし一部教員からでもまず実験的に導入する価値はある、と筆者は考えている。それは、教育における新しい考え方の導入として再び他大学から注目されるのではなろうか。

SFC は、その核心であるカリキュラムについても、上述した様々な観点を弾力的に取り入れて自ら「問題発見・解決」型で対応し、引き続き日本の大学改革をリードしてゆきたいものである。

以 上

## 参考文献および面談者等

(書物および各種資料)

Alexander Leitch (1978) A Princeton Companion, Princeton University Press.

Bain, Ken (2004), What the Best College Teachers Do, Harvard University Press.

William McLeery (1986) Conversations on the Character of Princeton, Princeton University Press.

Don Oberdorfer (1995) Princeton University: The First 250 Years, Princeton University.

Princeton University, The AI (Assistants in Instruction) Handbook.

Princeton University, The Freshman Seminar Program.

<<http://www.princeton.edu/~odoc/>>

Princeton University, Inspired Conversations: The Princeton Precept, 2003.

Princeton University, Precepting at Princeton.

<[http://web.princeton.edu/sites/mcgraw/precept\\_on\\_precepting.html](http://web.princeton.edu/sites/mcgraw/precept_on_precepting.html)>

Princeton University, Preceptorial method.

<[http://etc.princeton.edu/CampusWWW/Companion/preceptorial\\_method.html](http://etc.princeton.edu/CampusWWW/Companion/preceptorial_method.html)>

Princeton University, Princeton Honor Code. <<http://www.princeton.edu/~honor/>>

Princeton University, Princeton University 2004-2005, Admission Office.

Princeton University, Undergraduate Announcement 2004-2005.

Princeton University Undergraduate Student Government (2002) Report on the Status of the Princeton Precept System, April 8.

<<http://www.princeton.edu/usg/docs/precept.html>>

Raymond Rhinehart (2000) Princeton University: An Architectural Tour (The Campus Guide), Princeton Architectural Press.

岡部光明 (2000) 「正しさを追求する姿勢」『大学教育とSFC』西田書店。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (2005) 「カリキュラムに関するアンケート (学部生対象) 全体調査」授業調査 (特別調査) 結果。[内部資料]

(面談者等)

Hank Dobin, Associate Dean of the College, Princeton University.

Douglas S Massey, Professor of Sociology and Public and International Affairs, Woodrow Wilson School, Princeton University.

Lynn Thiesmeyer, Professor, Faculty of Environmental Information, Keio University.

Admission Officer, Admission Office, Princeton University.

Student, Orange Key Tour, Princeton University.

付表1 米国における大学のランキング (博士課程をもつ大学の場合)

America's Best Colleges 2005

National Universities: Top Schools

| Rank          | School<br>(State)                     | Overall score                       |                                 | Graduation & retention rank |                        | 2003 predicted grad. rate |                                    | 2003 overperf. (+) / underperf. (-) |                                    | % of classes under 20 ('03) |                    | Student/faculty ratio ('03) |      | Selectivity rank | Freshmen in top 10% of HS class ('03) |     | Financial resources rank |     | Avg. alumni giving rate |     |
|---------------|---------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|------------------------|---------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|--------------------|-----------------------------|------|------------------|---------------------------------------|-----|--------------------------|-----|-------------------------|-----|
|               |                                       | Peer assessment score (5.0 highest) | Average freshman retention rate | 2003 actual grad. rate      | 2003 actual grad. rate | Faculty resources rank    | % of classes with 50 or more ('03) | % faculty who are full-time ('03)   | SAT/ACT 25th-75th percentile ('03) | Acceptance rate ('03)       | Alumni giving rank |                             |      |                  |                                       |     |                          |     |                         |     |
| Sort by: Rank |                                       |                                     |                                 |                             |                        |                           |                                    |                                     |                                    |                             |                    |                             |      |                  |                                       |     |                          |     |                         |     |
| 1.            | Harvard University (MA)               | 100                                 | 4.9                             | 1                           | 97%                    | 92%                       | 98%                                | +6                                  | 2                                  | 73%                         | 13%                | 8/1                         | 92%  | 4                | 1400-1590                             | 90% | 10%                      | 8   | 3                       | 48% |
|               | Princeton University (NJ)             | 100                                 | 4.9                             | 1                           | 98%                    | 93%                       | 97%                                | +4                                  | 3                                  | 72%                         | 11%                | 5/1                         | 92%  | 2                | 1370-1560                             | 94% | 10%                      | 12  | 1                       | 61% |
| 3.            | Yale University (CT)                  | 99                                  | 4.9                             | 3                           | 98%                    | 94%                       | 96%                                | +2                                  | 7                                  | 75%                         | 8%                 | 6/1                         | 89%  | 1                | 1380-1580                             | 99% | 11%                      | 2   | 6                       | 45% |
| 4.            | University of Pennsylvania            | 95                                  | 4.6                             | 12                          | 97%                    | 92%                       | 92%                                | None                                | 1                                  | 74%                         | 7%                 | 6/1                         | 89%  | 7                | 1330-1510                             | 93% | 20%                      | 6   | 8                       | 39% |
| 5.            | Duke University (NC)                  | 94                                  | 4.6                             | 7                           | 97%                    | 92%                       | 92%                                | None                                | 3                                  | 72%                         | 6%                 | 8/1                         | 97%  | 8                | 1330-1520                             | 88% | 25%                      | 10  | 5                       | 46% |
|               | Massachusetts Inst. of Technology     | 94                                  | 4.9                             | 9                           | 98%                    | 93%                       | 92%                                | -1                                  | 15                                 | 63%                         | 15%                | 6/1                         | 88%  | 2                | 1410-1560                             | 97% | 16%                      | 7   | 12                      | 37% |
|               | Stanford University (CA)              | 94                                  | 4.9                             | 7                           | 98%                    | 92%                       | 94%                                | +2                                  | 13                                 | 69%                         | 14%                | 7/1                         | 99%  | 6                | 1340-1560                             | 90% | 13%                      | 8   | 9                       | 38% |
| 8.            | California Institute of Technology    | 93                                  | 4.7                             | 24                          | 96%                    | 93%                       | 89%                                | -4                                  | 9                                  | 63%                         | 9%                 | 3/1                         | 96%  | 4                | 1460-1580                             | 94% | 17%                      | 1   | 16                      | 34% |
| 9.            | Columbia University (NY)              | 88                                  | 4.7                             | 12                          | 98%                    | 91%                       | 92%                                | +1                                  | 13                                 | 73%                         | 8%                 | 7/1                         | 91%  | 13               | 1310-1510                             | 81% | 11%                      | 17  | 18                      | 33% |
|               | Dartmouth College (NH)                | 88                                  | 4.4                             | 4                           | 96%                    | 92%                       | 95%                                | +3                                  | 20                                 | 56%                         | 9%                 | 9/1                         | 92%  | 10               | 1330-1530                             | 84% | 18%                      | 11  | 3                       | 47% |
| 11.           | Northwestern University (IL)          | 87                                  | 4.4                             | 9                           | 96%                    | 91%                       | 93%                                | +2                                  | 5                                  | 73%                         | 9%                 | 7/1                         | 94%  | 18               | 1310-1480                             | 83% | 33%                      | 13  | 25                      | 29% |
|               | Washington University in St. Louis    | 87                                  | 4.1                             | 19                          | 96%                    | 86%                       | 89%                                | +3                                  | 6                                  | 72%                         | 8%                 | 7/1                         | 91%  | 8                | 1320-1480                             | 91% | 20%                      | 4   | 9                       | 38% |
| 13.           | Brown University (RI)                 | 86                                  | 4.5                             | 4                           | 97%                    | 92%                       | 96%                                | +4                                  | 19                                 | 66%                         | 11%                | 9/1                         | 95%  | 10               | 1290-1500                             | 87% | 16%                      | 27  | 9                       | 38% |
| 14.           | Cornell University (NY)               | 85                                  | 4.6                             | 15                          | 96%                    | 90%                       | 92%                                | +2                                  | 22                                 | 44%                         | 23%                | 9/1                         | 98%  | 16               | 1280-1470                             | 87% | 31%                      | 17  | 15                      | 34% |
|               | Johns Hopkins University (MD)         | 85                                  | 4.6                             | 20                          | 95%                    | 89%                       | 88%                                | -1                                  | 25                                 | 57%                         | 16%                | 9/1                         | 99%  | 24               | 1290-1470                             | 78% | 30%                      | 3   | 25                      | 29% |
|               | University of Chicago                 | 85                                  | 4.6                             | 21                          | 95%                    | 89%                       | 87%                                | -2                                  | 12                                 | 59%                         | 6%                 | 4/1                         | 95%  | 24               | 1300-1510                             | 78% | 40%                      | 19  | 27                      | 29% |
| 17.           | Rice University (TX)                  | 83                                  | 4.2                             | 16                          | 96%                    | 92%                       | 90%                                | -2                                  | 9                                  | 67%                         | 9%                 | 5/1                         | 85%  | 10               | 1330-1530                             | 86% | 24%                      | 22  | 14                      | 36% |
| 18.           | University of Notre Dame (IN)         | 80                                  | 3.9                             | 4                           | 98%                    | 89%                       | 95%                                | +6                                  | 17                                 | 54%                         | 11%                | 13/1                        | 88%  | 21               | 1270-1460                             | 83% | 29%                      | 43  | 2                       | 48% |
|               | Vanderbilt University (TN)            | 80                                  | 4.1                             | 30                          | 94%                    | 84%                       | 83%                                | -1                                  | 7                                  | 65%                         | 6%                 | 9/1                         | 96%  | 27               | 1250-1430                             | 77% | 40%                      | 13  | 30                      | 27% |
| 20.           | Emory University (GA)                 | 79                                  | 4.0                             | 24                          | 94%                    | 91%                       | 88%                                | -3                                  | 9                                  | 67%                         | 7%                 | 6/1                         | 95%  | 15               | 1300-1460                             | 90% | 42%                      | 15  | 36                      | 25% |
| 21.           | University of California - Berkeley * | 78                                  | 4.8                             | 26                          | 96%                    | 87%                       | 85%                                | -2                                  | 39                                 | 54%                         | 17%                | 16/1                        | 92%  | 13               | 1190-1440                             | 99% | 24%                      | 36  | 109                     | 15% |
| 22.           | Carnegie Mellon University (PA)       | 76                                  | 4.3                             | 35                          | 94%                    | 88%                       | 81%                                | -7                                  | 16                                 | 65%                         | 9%                 | 11/1                        | 93%  | 28               | 1280-1480                             | 72% | 38%                      | 22  | 36                      | 25% |
|               | University of Michigan - Ann Arbor *  | 76                                  | 4.6                             | 26                          | 96%                    | 75%                       | 85%                                | +10                                 | 53                                 | 49%                         | 16%                | 15/1                        | 91%  | 18               | 26-30                                 | 90% | 53%                      | 28  | 120                     | 14% |
|               | University of Virginia *              | 76                                  | 4.3                             | 12                          | 97%                    | 84%                       | 92%                                | +8                                  | 39                                 | 48%                         | 15%                | 16/1                        | 96%  | 26               | 1230-1430                             | 85% | 39%                      | 49  | 31                      | 26% |
| 25.           | Georgetown University (DC)            | 75                                  | 4.0                             | 9                           | 97%                    | 90%                       | 93%                                | +3                                  | 43                                 | 58%                         | 8%                 | 11/1                        | 86%  | 16               | 1290-1460                             | 83% | 23%                      | 36  | 18                      | 33% |
|               | Univ. of California - Los Angeles *   | 75                                  | 4.3                             | 26                          | 96%                    | 84%                       | 87%                                | +3                                  | 39                                 | 50%                         | 22%                | 18/1                        | 90%  | 18               | 1160-1410                             | 97% | 24%                      | 22  | 93                      | 16% |
| 27.           | Wake Forest University (NC)           | 73                                  | 3.5                             | 21                          | 94%                    | 85%                       | 87%                                | +2                                  | 31                                 | 60%                         | 2%                 | 10/1                        | 92%  | 33               | 1240-1390                             | 65% | 45%                      | 5   | 18                      | 33% |
| 28.           | Tufts University (MA)                 | 72                                  | 3.6                             | 16                          | 96%                    | 86%                       | 90%                                | +4                                  | 23                                 | 73%                         | 5%                 | 7/1                         | 84%  | 28               | 1250-1420                             | 70% | 26%                      | 35  | 22                      | 32% |
| 29.           | U. of North Carolina - Chapel Hill *  | 71                                  | 4.2                             | 34                          | 95%                    | 77%                       | 83%                                | +6                                  | 50                                 | 51%                         | 12%                | 14/1                        | 97%  | 33               | 1190-1390                             | 70% | 37%                      | 28  | 36                      | 25% |
| 30.           | Univ. of Southern California          | 70                                  | 3.9                             | 40                          | 94%                    | 79%                       | 81%                                | +2                                  | 34                                 | 63%                         | 12%                | 10/1                        | 83%  | 21               | 1250-1420                             | 84% | 30%                      | 45  | 16                      | 34% |
| 31.           | College of William and Mary (VA) *    | 67                                  | 3.8                             | 16                          | 95%                    | 82%                       | 90%                                | +8                                  | 58                                 | 42%                         | 8%                 | 12/1                        | 91%  | 21               | 1260-1440                             | 85% | 34%                      | 124 | 33                      | 26% |
| 32.           | Brandeis University (MA)              | 66                                  | 3.6                             | 26                          | 94%                    | 86%                       | 84%                                | -2                                  | 38                                 | 62%                         | 9%                 | 9/1                         | 91%  | 33               | 1250-1440                             | 69% | 44%                      | 46  | 22                      | 32% |
|               | New York University                   | 66                                  | 3.8                             | 43                          | 91%                    | 84%                       | 79%                                | -5                                  | 23                                 | 63%                         | 10%                | 12/1                        | 70%  | 33               | 1210-1410                             | 63% | 32%                      | 36  | 151                     | 11% |
|               | Univ. of Wisconsin - Madison *        | 66                                  | 4.2                             | 43                          | 91%                    | 72%                       | 79%                                | +7                                  | 58                                 | 42%                         | 18%                | 13/1                        | 93%  | 45               | 26-30                                 | 55% | 65%                      | 49  | 113                     | 15% |
| 35.           | Case Western Reserve Univ. (OH)       | 65                                  | 3.6                             | 43                          | 92%                    | 85%                       | 78%                                | -7                                  | 34                                 | 53%                         | 12%                | 7/1                         | 97%  | 47               | 1220-1430                             | 63% | 75%                      | 22  | 36                      | 25% |
|               | Univ. of California - San Diego *     | 65                                  | 3.8                             | 32                          | 94%                    | 83%                       | 83%                                | None                                | 58                                 | 50%                         | 31%                | 19/1                        | 93%  | 31               | 1150-1360                             | 99% | 41%                      | 26  | 176                     | 9%  |
| 37.           | Boston College                        | 64                                  | 3.6                             | 21                          | 95%                    | 84%                       | 86%                                | +2                                  | 70                                 | 38%                         | 7%                 | 13/1                        | 78%  | 30               | 1230-1400                             | 73% | 31%                      | 76  | 42                      | 25% |
|               | Lehigh University (PA)                | 64                                  | 3.1                             | 30                          | 93%                    | 79%                       | 86%                                | +7                                  | 27                                 | 56%                         | 8%                 | 10/1                        | 92%  | 43               | 1220-1380                             | 59% | 40%                      | 49  | 7                       | 40% |
|               | U. of Illinois - Urbana - Champaign * | 64                                  | 4.0                             | 37                          | 92%                    | 74%                       | 81%                                | +7                                  | 56                                 | 38%                         | 11%                | 12/1                        | 95%  | 43               | 25-31                                 | 57% | 63%                      | 62  | 131                     | 12% |
|               | University of Rochester (NY)          | 64                                  | 3.4                             | 40                          | 94%                    | 85%                       | 78%                                | -7                                  | 31                                 | 61%                         | 11%                | 9/1                         | 99%  | 33               | 1210-1400                             | 71% | 49%                      | 16  | 68                      | 20% |
| 41.           | Georgia Institute of Technology *     | 63                                  | 4.0                             | 69                          | 90%                    | 81%                       | 69%                                | -12                                 | 58                                 | 36%                         | 21%                | 13/1                        | 100% | 47               | 1250-1430                             | 58% | 63%                      | 43  | 21                      | 32% |
| 42.           | University of California - Davis *    | 62                                  | 3.8                             | 43                          | 92%                    | 77%                       | 81%                                | +4                                  | 84                                 | 31%                         | 28%                | 19/1                        | 95%  | 38               | 1080-1300                             | 95% | 60%                      | 33  | 165                     | 10% |
| 43.           | Tulane University (LA)                | 60                                  | 3.5                             | 62                          | 85%                    | 81%                       | 74%                                | -7                                  | 33                                 | 55%                         | 8%                 | 8/1                         | 82%  | 40               | 1240-1420                             | 65% | 55%                      | 53  | 45                      | 24% |
|               | University of California - Irvine *   | 60                                  | 3.6                             | 48                          | 93%                    | 72%                       | 79%                                | +7                                  | 58                                 | 39%                         | 22%                | 18/1                        | 91%  | 32               | 1086-1295                             | 96% | 54%                      | 53  | 176                     | 9%  |
| 45.           | Univ. of California - Santa Barbara * | 59                                  | 3.5                             | 62                          | 91%                    | 76%                       | 77%                                | +1                                  | 34                                 | 47%                         | 17%                | 17/1                        | 95%  | 38               | 1080-1300                             | 95% | 50%                      | 89  | 105                     | 16% |

|      |   |    |     |     |     |     |     |      |     |     |     |      |      |     |           |     |     |     |     |     |
|------|---|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 46.  | Rensselaer Polytechnic Inst. (NY)                 | 58 | 3.6 | 40  | 92% | 82% | 81% | -1   | 84  | 38% | 11% | 15/1 | 92%  | 51  | 1220-1400 | 58% | 80% | 62  | 57  | 21% |
|      | University of Texas - Austin *                    | 58 | 4.1 | 62  | 91% | 70% | 71% | +1   | 120 | 33% | 25% | 19/1 | 97%  | 49  | 1110-1350 | 69% | 47% | 117 | 131 | 12% |
|      | University of Washington *                        | 58 | 3.9 | 65  | 90% | 65% | 71% | +6   | 101 | 35% | 15% | 11/1 | 93%  | 68  | 1070-1310 | 48% | 71% | 31  | 120 | 14% |
|      | Yeshiva University (NY)                           | 58 | 2.9 | 32  | 86% | 76% | 76% | None | 17  | 68% | 1%  | 15/1 | 87%  | 113 | 1170-1350 | N/A | 78% | 19  | 76  | 18% |
| 50.  | Pennsylvania State U. - University Park *         | 57 | 3.8 | 35  | 92% | 72% | 82% | +10  | 172 | 30% | 20% | 17/1 | 95%  | 72  | 1090-1300 | 43% | 55% | 69  | 62  | 20% |
|      | University of Florida *                           | 57 | 3.6 | 52  | 92% | 74% | 77% | +3   | 133 | 33% | 23% | 22/1 | 99%  | 40  | 1140-1340 | 79% | 52% | 53  | 81  | 18% |
| 52.  | George Washington University (DC)                 | 56 | 3.4 | 50  | 92% | 78% | 75% | -3   | 101 | 50% | 12% | 14/1 | 69%  | 40  | 1180-1370 | 65% | 39% | 64  | 42  | 25% |
|      | Pepperdine University (CA)                        | 56 | 3.2 | 57  | 88% | 74% | 80% | +6   | 27  | 66% | 2%  | 12/1 | 77%  | 60  | 1090-1300 | 45% | 25% | 58  | 81  | 18% |
|      | Syracuse University (NY)                          | 56 | 3.4 | 43  | 91% | 71% | 81% | +10  | 43  | 66% | 8%  | 12/1 | 84%  | 79  | 1150-1320 | 44% | 62% | 107 | 62  | 20% |
| 55.  | Worcester Polytechnic Inst. (MA)                  | 55 | 2.9 | 48  | 91% | 81% | 77% | -4   | 29  | 70% | 10% | 12/1 | 88%  | 56  | 1180-1370 | 51% | 71% | 58  | 47  | 23% |
| 56.  | Boston University                                 | 54 | 3.4 | 57  | 88% | 74% | 75% | +1   | 101 | 55% | 10% | 15/1 | 88%  | 45  | 1220-1380 | 60% | 52% | 46  | 170 | 9%  |
|      | Univ. of Maryland - College Park *                | 54 | 3.7 | 72  | 92% | 71% | 70% | -1   | 133 | 35% | 15% | 18/1 | 90%  | 50  | 1170-1360 | 56% | 43% | 73  | 105 | 16% |
| 58.  | Rutgers - New Brunswick (NJ) *                    | 53 | 3.3 | 57  | 88% | 66% | 72% | +6   | 70  | 39% | 21% | 14/1 | 87%  | 68  | 1110-1310 | 39% | 54% | 69  | 90  | 17% |
|      | University of Georgia *                           | 53 | 3.5 | 65  | 92% | 68% | 72% | +4   | 58  | 34% | 13% | 14/1 | 94%  | 72  | 1120-1300 | 43% | 75% | 93  | 76  | 19% |
|      | University of Iowa *                              | 53 | 3.7 | 102 | 83% | 61% | 65% | +4   | 53  | 46% | 11% | 15/1 | 98%  | 99  | 22-27     | 21% | 82% | 64  | 109 | 15% |
|      | University of Miami (FL)                          | 53 | 3.2 | 97  | 84% | 70% | 67% | -3   | 49  | 47% | 7%  | 13/1 | 88%  | 51  | 1120-1340 | 60% | 44% | 31  | 113 | 14% |
| 62.  | Miami University - Oxford (OH) *                  | 52 | 3.4 | 37  | 90% | 69% | 80% | +11  | 139 | 36% | 10% | 18/1 | 89%  | 58  | 25-29     | 39% | 71% | 171 | 81  | 18% |
|      | Ohio State University - Columbus *                | 52 | 3.7 | 114 | 86% | 59% | 62% | +3   | 70  | 43% | 18% | 14/1 | 90%  | 72  | 23-28     | 33% | 72% | 64  | 93  | 16% |
|      | Purdue Univ. - West Lafayette (IN) *              | 52 | 3.8 | 91  | 89% | 59% | 66% | +7   | 58  | 36% | 19% | 15/1 | 95%  | 136 | 1030-1260 | 27% | 79% | 108 | 86  | 17% |
|      | Texas A&M Univ. - College Station *               | 52 | 3.5 | 54  | 89% | 68% | 75% | +7   | 166 | 19% | 25% | 21/1 | 94%  | 65  | 1070-1300 | 53% | 67% | 89  | 68  | 20% |
| 66.  | University of Connecticut *                       | 51 | 3.2 | 72  | 88% | 59% | 70% | +11  | 76  | 44% | 14% | 18/1 | 91%  | 106 | 1080-1260 | 30% | 53% | 76  | 42  | 24% |
|      | University of Delaware *                          | 51 | 3.2 | 57  | 89% | 61% | 74% | +13  | 113 | 36% | 18% | 13/1 | 93%  | 86  | 1090-1270 | 35% | 42% | 100 | 36  | 25% |
|      | Univ. of Minnesota - Twin Cities *                | 51 | 3.8 | 142 | 84% | 59% | 54% | -5   | 76  | 50% | 15% | 15/1 | 88%  | 79  | 22-28     | 33% | 76% | 36  | 157 | 11% |
|      | University of Pittsburgh *                        | 51 | 3.4 | 102 | 87% | 59% | 65% | +6   | 94  | 42% | 17% | 16/1 | 88%  | 64  | 1120-1310 | 43% | 48% | 40  | 93  | 16% |
| 70.  | Fordham University (NY)                           | 50 | 3.1 | 50  | 89% | 66% | 79% | +13  | 58  | 51% | 1%  | 12/1 | 74%  | 87  | 1090-1282 | 35% | 54% | 143 | 126 | 13% |
| 71.  | Indiana University - Bloomington *                | 49 | 3.8 | 72  | 88% | 58% | 72% | +14  | 139 | 40% | 19% | 19/1 | 95%  | 162 | 990-1220  | 23% | 81% | 156 | 93  | 16% |
|      | Michigan State University *                       | 49 | 3.5 | 72  | 89% | 54% | 69% | +15  | 178 | 21% | 24% | 19/1 | 95%  | 113 | 22-27     | 28% | 71% | 89  | 93  | 16% |
|      | Southern Methodist University (TX)                | 49 | 3.1 | 69  | 86% | 69% | 71% | +2   | 50  | 50% | 12% | 11/1 | 84%  | 87  | 1110-1300 | 35% | 65% | 93  | 93  | 16% |
| 74.  | Brigham Young Univ. - Provo (UT)                  | 48 | 3.0 | 54  | 92% | 78% | 74% | -4   | 101 | 40% | 16% | 21/1 | 89%  | 54  | 24-29     | 51% | 78% | 171 | 51  | 22% |
|      | Clark University (MA)                             | 48 | 3.0 | 83  | 85% | 66% | 67% | +1   | 43  | 64% | 5%  | 10/1 | 82%  | 96  | 1090-1300 | 30% | 63% | 108 | 45  | 24% |
|      | Clemson University (SC) *                         | 48 | 3.1 | 65  | 89% | 63% | 72% | +9   | 178 | 22% | 12% | 15/1 | 95%  | 65  | 1120-1290 | 42% | 61% | 93  | 33  | 25% |
|      | SUNY - Binghamton *                               | 48 | 3.1 | 37  | 91% | 74% | 80% | +6   | 101 | 44% | 14% | 21/1 | 88%  | 61  | 1150-1320 | 38% | 45% | 200 | 126 | 13% |
|      | Univ. of California - Santa Cruz *                | 48 | 3.2 | 91  | 87% | 75% | 65% | -10  | 84  | 35% | 22% | 19/1 | 89%  | 51  | 1030-1260 | 96% | 80% | 100 | 81  | 18% |
|      | University of Colorado - Boulder *                | 48 | 3.5 | 91  | 83% | 64% | 68% | +4   | 82  | 43% | 17% | 17/1 | 86%  | 96  | 23-28     | 24% | 80% | 133 | 157 | 11% |
|      | Virginia Tech *                                   | 48 | 3.4 | 57  | 87% | 66% | 74% | +8   | 186 | 24% | 22% | 17/1 | 94%  | 87  | 1120-1280 | 40% | 69% | 108 | 93  | 16% |
| 81.  | Stevens Institute of Technology (NJ)              | 47 | 2.7 | 91  | 89% | 84% | 69% | -15  | 39  | 42% | 10% | 9/1  | 77%  | 56  | 1190-1370 | 47% | 51% | 93  | 24  | 31% |
|      | St. Louis University                              | 47 | 3.0 | 72  | 87% | 73% | 71% | -2   | 76  | 49% | 4%  | 12/1 | 86%  | 65  | 23-29     | 31% | 71% | 69  | 131 | 13% |
|      | Univ. of California - Riverside *                 | 47 | 3.2 | 88  | 85% | 66% | 71% | +5   | 53  | 37% | 21% | 18/1 | 94%  | 68  | 960-1190  | 94% | 79% | 117 | 223 | 5%  |
| 84.  | Baylor University (TX)                            | 46 | 3.2 | 79  | 84% | 70% | 70% | None | 92  | 37% | 11% | 16/1 | 94%  | 99  | 1070-1275 | 38% | 82% | 182 | 36  | 25% |
|      | Iowa State University *                           | 46 | 3.3 | 97  | 84% | 59% | 66% | +7   | 113 | 35% | 19% | 16/1 | 95%  | 99  | 22-27     | 24% | 90% | 117 | 93  | 16% |
| 86.  | American University (DC)                          | 45 | 3.0 | 72  | 86% | 71% | 71% | None | 126 | 38% | 4%  | 15/1 | 76%  | 72  | 1130-1320 | 36% | 59% | 100 | 105 | 15% |
|      | North Carolina State U. - Raleigh *               | 45 | 3.1 | 97  | 89% | 65% | 63% | -2   | 139 | 32% | 16% | 15/1 | 97%  | 79  | 1100-1300 | 40% | 62% | 76  | 47  | 23% |
|      | University of Alabama *                           | 45 | 3.1 | 109 | 83% | 59% | 62% | +3   | 84  | 43% | 14% | 19/1 | 93%  | 119 | 21-26     | 24% | 87% | 171 | 12  | 37% |
|      | Univ. of Missouri - Columbia *                    | 45 | 3.3 | 97  | 84% | 68% | 67% | -1   | 94  | 51% | 12% | 18/1 | 95%  | 92  | 23-28     | 29% | 89% | 100 | 186 | 8%  |
| 90.  | Auburn University (AL) *                          | 44 | 3.0 | 88  | 83% | 58% | 68% | +10  | 126 | 26% | 14% | 16/1 | 96%  | 99  | 22-27     | 31% | 78% | 143 | 51  | 22% |
|      | Howard University (DC)                            | 44 | 2.9 | 116 | 87% | 50% | 63% | +13  | 70  | 64% | 4%  | 8/1  | 88%  | 164 | 840-1360  | 24% | 56% | 46  | 62  | 20% |
|      | Marquette University (WI)                         | 44 | 2.9 | 52  | 89% | 70% | 76% | +6   | 172 | 39% | 8%  | 15/1 | 80%  | 87  | 23-28     | 30% | 83% | 156 | 76  | 18% |
|      | University of Denver                              | 44 | 2.6 | 79  | 85% | 64% | 71% | +7   | 47  | 60% | 3%  | 10/1 | 79%  | 72  | 22-28     | 35% | 79% | 108 | 126 | 13% |
|      | University of Kansas *                            | 44 | 3.4 | 131 | 80% | 59% | 58% | -1   | 139 | 29% | 12% | 19/1 | 96%  | 99  | 21-27     | 28% | 68% | 100 | 86  | 17% |
|      | University of Tennessee *                         | 44 | 3.2 | 131 | 77% | 59% | 59% | None | 84  | 35% | 7%  | 15/1 | 98%  | 106 | 21-26     | 26% | 71% | 49  | 126 | 13% |
|      | University of Tulsa (OK)                          | 44 | 2.6 | 122 | 78% | 70% | 55% | -15  | 30  | 62% | 1%  | 11/1 | 89%  | 54  | 22-29     | 60% | 76% | 81  | 62  | 20% |
|      | University of Vermont *                           | 44 | 3.0 | 85  | 83% | 58% | 70% | +12  | 133 | 49% | 10% | 15/1 | 92%  | 140 | 1060-1250 | 21% | 75% | 73  | 90  | 17% |
| 98.  | Ohio University *                                 | 43 | 3.1 | 79  | 84% | 58% | 70% | +12  | 159 | 41% | 11% | 18/1 | 90%  | 125 | 22-26     | 19% | 79% | 152 | 170 | 9%  |
|      | SUNY College Environmental Science and Forestry * | 43 | 2.5 | 79  | 85% | 62% | 70% | +8   | 50  | 72% | 7%  | 12/1 | 99%  | 136 | 1040-1220 | 26% | 57% | 64  | 57  | 21% |
|      | Texas Christian University                        | 43 | 2.7 | 104 | 82% | 65% | 65% | None | 47  | 45% | 9%  | 15/1 | 82%  | 113 | 1060-1260 | 33% | 65% | 156 | 28  | 28% |
|      | University of Arizona *                           | 43 | 3.6 | 142 | 77% | 59% | 55% | -4   | 101 | 29% | 17% | 20/1 | 99%  | 147 | 990-1240  | 34% | 85% | 81  | 170 | 10% |
|      | University of Dayton (OH)                         | 43 | 2.6 | 54  | 88% | 67% | 76% | +9   | 147 | 33% | 2%  | 15/1 | 74%  | 106 | 22-28     | 19% | 82% | 124 | 31  | 26% |
|      | Univ. of Massachusetts - Amherst *                | 43 | 3.3 | 109 | 84% | 57% | 64% | +7   | 126 | 38% | 15% | 18/1 | 94%  | 158 | 1030-1240 | 16% | 82% | 108 | 109 | 15% |
|      | Univ. of Nebraska - Lincoln *                     | 43 | 3.2 | 136 | 81% | 59% | 59% | None | 92  | 32% | 14% | 16/1 | 100% | 113 | 21-27     | 25% | 76% | 117 | 47  | 23% |
|      | University of New Hampshire *                     | 43 | 2.9 | 72  | 85% | 58% | 72% | +14  | 84  | 44% | 14% | 14/1 | 94%  | 162 | 1010-1230 | 20% | 69% | 124 | 105 | 15% |
| 106. | Drexel University (PA)                            | 42 | 3.0 | 118 | 84% | 66% | 57% | -9   | 101 | 53% | 7%  | 10/1 | 75%  | 99  | 1100-1290 | 31% | 70% | 58  | 71  | 19% |
|      | Illinois Institute of Technology                  | 42 | 2.9 | 122 | 85% | 83% | 67% | -16  | 70  | 49% | 6%  | 12/1 | 82%  | 61  | 25-30     | 37% | 59% | 73  | 131 | 12% |
|      | SUNY - Stony Brook *                              | 42 | 3.2 | 131 | 86% | 57% | 56% | -1   | 84  | 36% | 25% | 14/1 | 86%  | 96  | 1070-1270 | 32% | 51% | 81  | 223 | 5%  |
|      | University of Missouri - Rolla *                  | 42 | 2.8 | 122 | 84% | 76% | 60% | -16  | 68  | 45% | 7%  | 14/1 | 91%  | 59  | 25-30     | 40% | 79% | 124 | 54  | 21% |
|      | University of San Diego                           | 42 | 2.8 | 83  | 85% | 68% | 72% | +4   | 94  | 40% | 1%  | 14/1 | 76%  | 79  | 1060-1270 | 45% | 51% | 124 | 157 | 11% |
| 111. | Catholic University of America (DC)               | 41 | 2.8 | 85  | 84% | 71% | 69% | -2   | 101 | 60% | 4%  | 8/1  | 75%  | 125 | 1050-1270 | 24% | 82% | 81  | 143 | 12% |
|      | Florida State University *                        | 41 | 3.1 | 104 | 86% | 64% | 63% | -1   | 113 | 32% | 16% | 22/1 | 91%  | 72  | 1050-1250 | 55% | 64% | 200 | 131 | 12% |

|      |                                      |    |     |     |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |           |     |     |     |     |     |
|------|--------------------------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
|      | Loyola University Chicago            | 41 | 2.8 | 85  | 84% | 64% | 69% | +5   | 139 | 30% | 7%  | 13/1 | 78% | 92  | 22-27     | 28% | 82% | 81  | 189 | 7%  |
|      | University of San Francisco          | 41 | 2.9 | 97  | 83% | 60% | 66% | +6   | 56  | 63% | 3%  | 14/1 | 89% | 171 | 1030-1240 | 23% | 82% | 165 | 131 | 12% |
|      | University of the Pacific (CA)       | 41 | 2.6 | 91  | 85% | 68% | 68% | None | 66  | 58% | 6%  | 14/1 | 83% | 106 | 1050-1278 | 37% | 71% | 69  | 143 | 12% |
|      | University of Utah *                 | 41 | 3.1 | 161 | 77% | 58% | 54% | -4   | 113 | 42% | 19% | 16/1 | 96% | 119 | 22-26     | 25% | 86% | 40  | 143 | 12% |
| 117. | Colorado State University *          | 40 | 2.9 | 107 | 82% | 59% | 62% | +3   | 94  | 35% | 16% | 18/1 | 98% | 125 | 22-26     | 21% | 79% | 143 | 165 | 10% |
|      | University of Oregon *               | 40 | 3.4 | 114 | 83% | 57% | 61% | +4   | 120 | 42% | 14% | 19/1 | 88% | 164 | 989-1219  | 22% | 84% | 190 | 131 | 13% |
|      | Univ. of South Carolina - Columbia * | 40 | 3.0 | 116 | 82% | 56% | 61% | +5   | 139 | 35% | 11% | 17/1 | 90% | 129 | 1030-1250 | 26% | 64% | 156 | 54  | 21% |
| 120. | Michigan Technological University *  | 39 | 2.7 | 109 | 79% | 69% | 61% | -8   | 84  | 41% | 10% | 12/1 | 96% | 92  | 23-28     | 30% | 93% | 108 | 71  | 19% |
|      | New School University (NY)           | 39 | 2.8 | 150 | 78% | 64% | 59% | -5   | 34  | 86% | 1%  | 9/1  | 22% | 119 | 1080-1280 | 21% | 50% | 124 | 208 | 6%  |
|      | Northeastern University (MA)         | 39 | 3.0 | 131 | 84% | 59% | 60% | +1   | 159 | 41% | 12% | 16/1 | 89% | 79  | 1120-1300 | 35% | 47% | 133 | 131 | 13% |
|      | Seton Hall University (NJ)           | 39 | 2.8 | 118 | 79% | 53% | 59% | +6   | 76  | 52% | 2%  | 15/1 | 73% | 164 | 990-1210  | 26% | 82% | 117 | 86  | 17% |
|      | University at Buffalo - SUNY *       | 39 | 3.1 | 118 | 85% | 62% | 57% | -5   | 101 | 35% | 18% | 16/1 | 87% | 144 | 1030-1230 | 22% | 62% | 117 | 186 | 9%  |
|      | University of Arkansas *             | 39 | 2.8 | 172 | 82% | 56% | 48% | -8   | 70  | 41% | 12% | 17/1 | 98% | 79  | 22-28     | 36% | 85% | 93  | 57  | 21% |
|      | University of Kentucky *             | 39 | 3.0 | 122 | 79% | 63% | 61% | -2   | 213 | 21% | 17% | 16/1 | 88% | 106 | 22-27     | 28% | 81% | 53  | 62  | 20% |
|      | University of Oklahoma *             | 39 | 3.0 | 142 | 83% | 64% | 54% | -10  | 166 | 35% | 14% | 21/1 | 92% | 72  | 24-28     | 36% | 82% | 89  | 57  | 21% |
|      | University of St. Thomas (MN)        | 39 | 2.5 | 69  | 86% | 64% | 76% | +12  | 159 | 43% | 2%  | 14/1 | 75% | 92  | 22-27     | 28% | 87% | 165 | 120 | 13% |
|      | Washington State University *        | 39 | 3.0 | 113 | 84% | 55% | 60% | +5   | 147 | 43% | 17% | 17/1 | 93% | 171 | 950-1170  | 30% | 78% | 100 | 68  | 20% |

(出所) <http://www.usnews.com/usnews/edu/college/rankings/premium/natudoc/tier1/t1fnatudoc.php>



付表 2 . Program of Freshman Seminars in the Residential Colleges  
2004-05

*Butler College Seminars*

**FRS 101 Religious Conviction, Religious Disagreement**

Adam Elga

**FRS 103 Tragedy: The Example of Hamlet**

Thomas Roche

**FRS 105 Music in Cross-Cultural Perspective: Africa and the West**

Martin Scherzinger

**FRS 107 So You Want to Be Secretary of State: How U.S. Secretaries of State View the World**

Anne-Marie Slaughter, William Burke-White

**FRS 109 Gardens of Paradise, Gardens of Work**

Susan Stewart

**FRS 111 The Environmental Imagination: Earth, Nature, and Culture**

William Stowe

**FRS 113 The Search for Life in the Universe**

Michael Strauss

*Forbes College Seminars*

**FRS 115 The Problem of Suffering**

James Diamond

**FRS 117 Dilemmas of Athletic Competition**

Harold Feiveson

**FRS 119 A Biography of Energy**

Richard Golden

**FRS 121 Ancient Egypt and its Hieroglyphs**

Joshua Katz

**FRS 123 Rembrandt and Vermeer**

Thomas Kaufmann

*Mathey College Seminars*

**FRS 125 Election Machinery**

Andrew Appel

**FRS 127 A Multidisciplinary Approach to Dostoevsky's Brothers Karamazov**

Ellen Chances

**FRS 129 Islam and the English Imagination**

Lawrence Danson

**FRS 131 The Mediterranean and its Travelers**

Constanze Güthenke

**FRS 133 20th-Century Poems and Poets: Politics, War, Religion, and Art**

Neil Rudenstine

**FRS 135 Crafting Constitutions**  
Kim Lane Scheppele

*Rockefeller College Seminars*

**FRS 137 Rocket Science**  
Edgar Choueiri

**FRS 139 Falling from Paradise**  
Kathleen Davis

**FRS 141 The Ghetto as a Socio-historical Problem**  
Mitchell Duneier

**FRS 143 Diversity in Higher Education**  
Thomas Espenshade

**FRS 145 An Abiding Thirst: Understanding Poverty and Inequality in America**  
Patricia Fernandez-Kelly

**FRS 147 Men and Women**  
Deborah Nord

**FRS 149 Active Geological Processes**  
Robert Phinney, Nadine McQuarrie

**FRS 151 Six Degrees of Separation: Small World Networks in Science, Technology, and Society**  
H. Vincent Poor

**FRS 153 Elements of Life**  
Edward Stiefel

**FRS 155 Consciousness: Brain and Mind**  
Anne Treisman

*Wilson College Seminars*

**FRS 157 Economics of Environmental Protection**  
Smita Brunnermeier

**FRS 159 Dante's Divine Comedy as an Introduction to Medieval Studies**  
John Fleming

**FRS 161 Merchants of Venice: Understanding Business in the Premodern World**  
Molly Greene

**FRS 163 Japanese Popular Culture**  
Richard Okada

**FRS 165 Ethics and Politics in Public Service**  
Rob Reich

**FRS 167 Ethical Choices**  
Peter Singer

**FRS 169 The Tragic, the Comic, and the Political**  
Cornel West

(出所) <http://www.princeton.edu/pr/pub/fs/>

( 付表 3 )

## Teaching as a learning process

by Karin Dienst • Posted March 14, 2005; 01:03 p.m.

### ***Graduate students hone skills, strengthen University 's commitment to undergraduate instruction***

Princeton graduate students play a key role in meeting the University's historic commitment to undergraduate teaching. Keeping alive Woodrow Wilson's ideal of student-centered instruction, graduate students can be seen across campus encouraging discussions about readings and running lab experiments or problem sessions, all while pursuing their own studies. The Feb. 28 issue of the Princeton Weekly Bulletin profiled three graduate students who have flourished as teachers. At Princeton, the majority of doctoral candidates teach. Teaching is a requirement in nearly half of the academic departments, and generally is undertaken during a student's second and third years.

Ph.D. students who teach describe the experience as a learning process for them, just as it is for their students. This intellectual give-and-take is perhaps most evident in the precept setting, which was introduced by Wilson in 1905 to stimulate conversation about readings and lectures. Many humanities and social science courses at Princeton include lectures led by a faculty member and a precept, which enrolls approximately 12 undergraduates and often is guided by a graduate student.

For some graduate students, the bug bites hard enough to prompt them to seek teaching opportunities even beyond their field of expertise or the campus itself. Along the way, assistants in instruction — which is the University's title for graduate student teachers — turn to a range of resources to help them strengthen their teaching abilities. Easily the most important sources of inspiration and guidance for novice teachers are faculty members, who serve as mentors and role models. Various academic departments also run training sessions to prepare students for teaching. In addition, campus resources such as the McGraw Center for Teaching and Learning and the Writing Center are instrumental in providing instruction to new teachers. Not least, feedback from the students they teach as well as insights from peers have a significant impact on helping graduate students hone their classroom skills.

“ We view teaching as a key component of a Ph.D. education, whether a student intends to pursue a career in academia, the corporate world, or government or nonprofit sectors, ” said Dean of the Graduate School William Russel. “ To learn how to explain clearly to a novice a basic concept, or the essence of your field, is valuable to anyone. Any faculty member will admit that one does not truly know a subject until teaching it. ”

The graduate students profiled in the Weekly Bulletin were honored in 2004 by the Graduate School for their dedication and effectiveness in teaching: Kerry Bystrom in English and Susan McWilliams in politics, both of whom received the Association of Princeton Graduate Alumni Teaching Award sponsored by the graduate alumni; and Pedro Goldbaum in physics, who received the Friends of the International Center Excellence in Teaching Award, which is given annually to an international graduate student.

(Source)

<http://www.princeton.edu/main/news/archive/S11/08/22A50/index.xml?section=featured>